技術にこころをこめて75年

速報

第10回日本リーグ

男子　湧永製薬　2年ぶり3度目

女子　大崎電気　2年連続2度目

第10回ハンドボール日本リーグは、11月24日に後期最終日を終え全日程を終了した。

男子は、首位を走る湧永製薬が後期第2週で日新製鋼に敗れたものの、ライバルが各々星をつぶしあい、結局最終週を待たずに2年ぶり3度目の優勝を決めた。

一方女子は、前期全勝で折り返した立石電機山鹿が、後期第2週に日立栃木に敗れ、1敗同士の大崎電気と最終日の決戦となった。しかし、この試合前半から大崎が大きくリード、結局前期の雪辱を果たした大崎電気が、2年連続2度目の優勝を飾った。

［順位］

〈男子〉
①湧永製薬（7勝1敗）
②大崎電気（5勝3敗）
③日新製鋼（5勝3敗）
④本田技研鈴鹿（3勝5敗）
⑤三陽商会（9敗）

〈女子〉
①大崎電気（9勝1敗）
②立石電機山鹿（8勝2敗）
③日立栃木（6勝4敗）
④ジャスコ（4勝6敗）
⑤日本ビクター（2勝8敗）
⑥大和銀行（1勝9敗）

［個人賞］

◎ベスト7
〈男子〉
GK　井藤英忠（湧永製薬）
FP　西山　清（日新製鋼）
立木浩二（本田技研鈴鹿）
首藤信一（大崎電気）
池ノ上孝司（湧永製薬）
山本伸二（湧永製薬）
実方　智（三陽商会）
〈女子〉
GK　梅野康子（大崎電気）
FP　ビスニッチ（立石電機山鹿）
李　相玉（大崎電気）
李　京姫（大崎電気）
前田重子（日立栃木）
武藤夕起子（日本ビクター）
山岸和子（日立栃木）

◎最多得点賞
〈男子〉
池ノ上孝司（湧永製薬）
実方　智（三陽商会）　45点
〈女子〉
武藤夕起子（日本ビクター）62点

◎最高得点率賞
〈男子〉
山口哲史（三陽商会）　57・1％
〈女子〉
三木知子（ジャスコ）　65・5％

◎最優秀監督賞
〈男子〉
津川　昭（湧永製薬）
〈女子〉
谷口俊郎（大崎電気）

◎ペナルティー得点賞
〈男子〉
西山　清（日新製鋼）26点
〈女子〉
長田友子（日本ビクター）31点

［二部順位］

〈男子〉
①三　景（6勝1敗）
②大阪イーグルス（5勝2敗）
③トヨタ車体（4勝3敗）
④トヨタ自動車（4勝3敗）
⑤日鉄建材（3勝4敗）
⑥本田技研熊本（3勝4敗）
⑦中村荷役（3勝4敗）
⑧大阪ガス（7敗）

〈女子〉
①ブラザー工業（5勝）
②東京重機（4勝1敗）
③北国銀行（2勝3敗）
④シャトレーゼ（1勝3敗1分）
⑤ムネカタ（1勝3敗1分）
⑥ソニー国分（1勝4敗）

第28回全日本学生選手権

〈男子〉大体大——3年ぶり2度目の優勝

〈女子〉日体大——3年連続14度目の優勝

11月20日から24日まで山口県体育館で開催された第28回全日本学生選手権大会は、男子は大体大対日大、女子は日体大対武庫川女大という東西対決となったが、男子は大体大が3年ぶり2度目、女子は日体大が3年連続14度目の優勝を飾った。

〈男子〉
▼3位決定戦
日体大　27—22　中部大
▼決勝
大体大　25—22　日大

〈女子〉
▼3位決定戦
筑波大　20—16　大体大
▼決勝
日体大　24—18　武庫川女大

第40回国民体育大会ハンドボール競技

成年男子―広島
成年女子―栃木
少年男子―山口
少年女子―大阪
に栄冠

第40回国民体育大会ハンドボール競技は、10月21日から25日までの5日間、鳥取県境港市で熱戦をくり広げた。

今回全県参加種目となった成年男子は、広島（湧永製薬）と三重（本田技研鈴鹿）の日本リーグ勢の決勝となり、広島が5年連続5度目の優勝を飾った。（別にワクナガ薬品は以前大阪で出場3回の優勝がある）。成年女子は、同じく日本リーグ勢の栃木（日立栃木）と熊本（立石電機山鹿）の決勝。栃木が前半から好調で、5年ぶり2度目の優勝を遂げた。

一方少年の部は、男子は山口が4年ぶり7度目（県高校選抜としては2度目）の優勝、女子は大阪が11年ぶり8度目（府高校選抜としては3度目）の優勝をした。

〈成年男子〉

▼1回戦

神奈川選抜 25 （9―10、16―10） 20 トヨタ車体（愛知）

○…前半は両チームとも動きが固かったが、愛知の好キーピングもあり1点をリードする。後半に入って両チームとも1点を争う好ゲームとなり、神奈川が逆転で勝利を得る。（丸谷）

位置	〔愛知〕	得	〔神奈川〕	得
GK	宮田	0	吉田	0
GK	村林	0	佐藤	0
FP	長野	7	茂垣	1
FP	藤長	4	谷中	8
FP	萩原	4	日吉	0
FP	蓑田	0	黒澤	0
FP	磯貝	0	阿部	1
FP	河村	2	海老原	4
FP	松井	1	笠場	3
FP	大垣	2	斉田	2
FP	田村	0	守谷	2
FP	中島	0	鈴木	4
PT	(1)	20	(4)	25

（審・萬場・早田）

愛媛選抜 25 （11―8、9―12、2―2、3―0） 22 江津ク（島根）

○…前半両チームともに立ち上がりが固く攻めあぐみ、リズムをつかむ間もなく互角のうちに終った。後半、じりじりと愛媛がリードしていったが、1分前に島根が同点に追いつき、延長戦となった。延長では、愛媛の北谷、土井、今井の得点で3点をリードし、逃げ切った。（萬場）

位置	〔島根〕	得	〔愛媛〕	得
GK	川本	0	鈴木	0
GK	石倉	0	藤田	0
FP	斉藤	0	岩崎	0
FP	小松原	6	今井	8
FP	山本	0	土井	4
FP	藤原	0	小野	0
FP	浴元	4	伊藤	1
FP	奥川	0	定岡	3
FP	野津	3	小笠原	2
FP	曳野	5	塩崎	3
FP	浅原	1	北谷	2
FP	奥谷	3	川田	2
PT	(5)	22	(5)	25

（審・丸谷・奥田）

全熊本 33 （18―12、15―12） 24 宮城教員

○…熊本は多彩な攻めで終始リードを奪うが、宮城も佐々木を中心に粘り強く食い下がり、前半を18―12で終了。後半、宮城はよく追撃したが、速攻、個人技に勝る熊本が緒戦をものにした。（奥田）

位置	〔宮城〕	得	〔熊本〕	得
GK	春名	0	岩本	0
GK	守屋	0	阪本	0
FP	佐々木	6	田上	0
FP	伊藤	3	斉所	3
FP	三井	0	中村	2
FP	星	0	佐伯	6
FP	鎌田	0	長野	7
FP	佐々木	9	岡崎	3
FP	菊地	2	北島	6
FP	佐々木	0	鯖江	3
FP	尾形	3	荒田	0
FP	石川	1	片山	3
PT	(1)	24	(2)	33

（審・萬場・早田）

山形ク（山形） 30 （13―10、17―7） 17 佐賀教員

○…前半20分過ぎまでは佐賀の一歩リードであったが、それ以後山形の速攻と佐賀のPTミスで3点差で山形がリードした。後半は山形の速攻、遅攻のバランス、佐賀のシュートミスで大きく差が開いてしまった。（丹田）

位置	〔佐賀〕	得	〔山形〕	得
GK	谷崎	0	佐藤	0
GK	田中	0	横瀬	0
FP	実松	0	鎌田	10
FP	境	2	柳谷	1
FP	柳本	1	加藤	4
FP	清水	1	滝浪	3
FP	小松	7	岡崎	0
FP	久保田	0	阿部	4
FP	川原	1	伊藤	3
FP	仲里	1	田中	0
FP	磯口	4	梁瀬	5
FP	松隈	0	高橋	0
PT	(3)	7	(3)	30

（審・松原・伊藤）

茨城選抜 36 （14―14、22―9） 23 御坊ク（和歌山）

○…開始2分半、茨城・酒井のペナルティーに始まったゲーム、キャリアに勝る和歌山のリードも18分まで。同点となってから後半7～8分までは一進一退のシーソーゲーム。しかし、2点差がついてから若さの茨城は、速攻、ロングと遠藤や杉森らの活躍により楽な試合展開となった。（松原）

位置	〔和歌山〕	得	〔茨城〕	得
GK	伊藤	0	香川	0
GK	前	0	横田	0
FP	北畠	4	酒井	3
FP	塩崎	4	安田	0
FP	井原	5	篠崎	1
FP	中井	7	柴沼	7
FP	大橋	2	鈴木	2
FP	左成	0	遠藤	8
FP	野村	0	川上	2
FP	西山	0	杉森	12
FP	竹田	0	菊田	0
FP	西	0	上原	1
PT	(1)	23	(4)	36

（審・楠戸・石川）

全富山 27 （10―11、17―14） 25 大電会（大分）

○…前半、両チームとも固さがほぐれず、パスミス、シュートミ

スが目立つ試合展開であった。大分は21分、8—8の同点に追いつかれたものの、常に先行しながら前半を終了した。後半に入っても一進一退がつづいていたが、富山は10分、速攻2本で逆転に成功しその後も速攻を中心に得点を重ね若い大分を振り切った。（伊藤）

得	〔富山〕		〔大分〕	得
0	水谷	GK	伊藤	0
0	小坪		藤内	0
5	越前	FP	渡辺	1
7	小嶋		足立	8
0	矢田		大石	0
2	山崎		甲斐	1
5	中山	（審・清水 丹田）	二宮	1
0	栗山		工藤	2
3	指崎		後藤	5
2	中浦		朝来	4
0	上田		山地	0
3	秀永		島村	3
27	(0)	PT	(0)	25

市岐商ク（岐阜）37〔19—11 18—15〕26 池田ク（徳島）

○…岐阜が先行すると徳島が追いつき同点となる試合展開であったが、前半17分頃徳島のパスミス、オーバーステップなどを岐阜が速攻に結びつけて得点を重ねたが、徳島も白井、国安、秋田を中心によく攻めたもののシュートが甘くなり得点をあげることができず点差が開いた。後半に入っても徳島のディフェンスが動かなくなり差が開いた。（石川）

得	〔岐阜〕		〔徳島〕	得
0	武井	GK	谷藤	0
0	村瀬		土井	0
4	斉藤	FP	白井	6
11	横山		山下	5
0	柳原		坂田	1
4	堀		曽根	0
0	田中	（審・松原 伊藤）	豊田	1
0	堀		坂本	0
4	古川		国安	4
10	小林		豊田	3
0	後藤		国安	1
4	鈴木		秋田	5
37	(1)	PT	(4)	26

浦添ク（沖縄）35〔18—9 17—11〕20 全青森

○…青森の攻撃がポストに頼りすぎの感があり、そのポストパスをカットしては沖縄は得点し楽なゲームを進めて行く。青森は攻守とも足が止まり単調となって点差を広げられる。（松尾）

得	〔沖縄〕		〔青森〕	得
0	新垣	GK	三ッ谷	0
0	玉城		藤川	0
3	高良	FP	野坂	0
7	高良		浜野	6
3	新垣		清水目	7
0	宮元		斉藤	0
7	宮城	（審・真木 柳原）	滝口	0
1	大城		木村	2
1	仲田		角谷	0
6	上原		荒谷	1
3	喜舎場		小塚	1
4	黒島		杉山	3
35	(5)	PT	(3)	20

全長野 27〔14—11 13—13〕24 静岡県教員団

○…立ち上がりから実力の均衡した両チームの白熱したゲームがつづいた。前半10分過ぎ、ペースをつかんだ静岡が20分には11—8と3点リードしたが、静岡・大石の退場から長野ペースとなり、前半を14—11とリードして終了。後半に入って静岡ペースとなり、10分過ぎには17—17の同点に追いつき、1点を争う好ゲームがつづいた。20分過ぎには1点をリードした静岡であったが、長野も4点を連取し逆転、そのまま逃げ切った。両チームともGKの好守もあり好ゲームだった。（平森）

得	〔長野〕		〔静岡〕	得
0	小島	GK	能勢	0
0	片桐		飛田	0
0	竹内	FP	杉山	3
5	塩川		大石	0
7	矢島		石川	0
1	行田		細沢	4
4	小山	（審・福田 松尾）	太田	0
4	岩下		菊地	0
3	渡辺		小林	11
0	塩川		坪井	0
0	黒岩		若田	6
3	菅沼		清水	0
27	(1)	PT	(1)	24

北九州ク（福岡）22〔9—6 13—10〕16 讃岐ク（香川）

○…立ち上がり両チームとも固さが見られた。香川は松原を中心にミドルシュート、相手のディフェンスからのペナルティースローで得点。福岡も大久保、山崎を中心に攻撃するが、香川GKの好守にあう。中盤より福岡の動きがよくなり速攻で着々と得点、前半を9—6と福岡リードで終了。後半も福岡の攻撃リズムがよく、全員が走り速攻プレーで着々と得点。中盤、一方的なゲームとなる。香川も終盤追い上げたが、福岡はよく走り6点差でゲームを終わる。（真木）

得	〔福岡〕		〔香川〕	得
0	岩崎	GK	石脇	0
			安部	0
2	大久保	FP	前田	5
1	田尻		多田	0
0	角本		松原	5
1	中村		山岡	1
5	新谷	（審・中森 古富）	杉山	2
3	天野		西山	0
2	山崎		渡辺	1
2	森本		久保	2
2	藤田		宮治	0
4	野口		中村	0
22	(1)	PT	(2)	16

三景（東京）36〔20—8 16—17〕25 福井教員

○…前半、立ち上がりから東京はスピードに乗った攻撃を展開する。福井はサウスポー土本と小林のサイド攻撃で対抗するも東京GKの好キーピングに阻止され、東京が20—8でリードし折り返す。後半に入り東京は攻守ともに雑になり福井の追い上げを受けたが、スピード攻撃はゆるまず東京が逃げ切った。福井の試合を捨てない粘りが光った。（古島）

得	〔東京〕		〔福井〕	得
0	中村	GK	川村	0
0	北川		柴田	0
8	田畑	FP	小林	6
1	太田		谷口	4
4	近藤		土橋	0
2	高橋		竹野	2
10	郡司	（審・真木 柳原）	半田	0
1	福永		田安	0
7	田村		松山	3
1	山田		吉田	5
1	岡部		土本	5
1	大谷		川上	1
36	(2)	PT	(3)	25

あかぎク（群馬）25〔13—9 22—9〕18 湯沢ク（秋田）

○…前半立ち上がりから両チームともよく走りシーソーゲームを展開していたが、中盤秋田のミスがつづき帰陣が遅くなり得点を許した。その後立ち直り、追い上げて13—9で前半を終る。後半に入り秋田のシュートが雑になり、ミスもつづいて速攻に結びつけた群馬が点差を開いたゲームであった。（島田）

得	〔群馬〕		〔秋田〕	得
0	譲原	GK	吉田	0
0	野口			
1	桜井	FP	佐藤	0
3	小金沢		日野	0
5	斉藤		吉関	2
7	今井		管野	3
1	長谷川	（審・辻 国府）	近野	1
5	岡田		佐々木	4
2	栗田		半田	4
4	石井		斎藤	4
5	高梨		佐藤	0
2	寺山			
35	(2)	PT	(0)	18

山口県教員団 42〔19—13 23—20〕33 高知ク

○…立ち上がり高知・野村のロングが2本決まり先行するが、固さのとれ始めた5分過ぎから山口がコート狭し縦横無尽に走り出したてつづけにポイントを積み重ねる。高知も食い下がろうとするが、野村、道倉のロングによる単発シュートだけに頼ってしまう。組織力で山口に軍配が上がる。（国府）

得	〔山口〕		〔高知〕	得
0	吉村	GK	久家	0
0	加藤		成岡	0
2	坂本	FP	山本	3
0	赤地		片岡	1
6	吉兼		寺島	0
10	角		大原	4
11	片山	（審・島田 大宮）	酒井	4
8	原井		野村	6
3	中村		堀越	1
2	河上		道倉	8
0	山崎		中川	1
0	岡村		谷脇	5
42	(5)	PT	(3)	33

千葉教員 40〔20—10 20—10〕20 柏崎ク（新潟）

○…力に勝る千葉教員は、速攻を中心に得点を重ねて前半で勝負を決めた一戦であった。得点こそ大きく離れはしたが、新潟もサイドシュート、カットインなどで得点し、最後まで気をゆるめることなくよく動き頑張った。（大宮）

得	〔千葉〕		〔新潟〕	得
0	塩原	GK	青木	0
0	寺田		石塚	0
4	山上	FP	山川	2
9	仲村		荊部	3
7	仲田		山田	0
5	植村	（審・国府 辻）	山沢	3
2	大村		原田	0
7	大鐘		黒崎	6
2	飯名		真貝	1
0	泉水		片山	2
2	加藤		黒崎	0
2	浅原		矢島	3
40	(0)	PT	(0)	20

兵庫選抜 44（2420／2016）36 虎の穴（北海道）

○…お互いにミスが多く、大味な試合展開となる。15分過ぎ兵庫に速攻、カットインプレーが出始め、ゲームは兵庫ペースで進むかに見えたが、北海道もサイド、ポストプレーで得点、一進一退のゲームとなる。後半に入り個人技に勝る兵庫が速攻を中心に加点、また、GKの再三の好キーピングに助けられ勝利を得る。（辻）

得	〔兵庫〕		〔北海道〕	得
0	近藤	GK	鈴木	0
0	馬場			
3	浜田	FP	山内	3
2	岸本		三宮	3
10	工藤		稲益	5
7	松岡	（審・大島 宮田）	橋本	7
1	大西		樹下	7
3	大崎		下重	1
5	山崎		佐藤	7
10	竹内		松本	3
2	八幡			
1	岡辺			
44	(2)	PT	(2)	36

▼2回戦

湧永製薬（広島）31（1318／6 9）15 神奈川選抜

○…広島は実力通り着実に加点する。一方神奈川は巧技を見せ対抗するが、高さと厚みのあるディフェンスにあい連続得点が出来ず差を縮めることなく終了した。広島の荒いディフェンスが気にかかった。（古宮）

得	〔広島〕		〔神奈川〕	得
0	大城	GK	吉田	0
0	井藤		佐藤	0
3	池ノ上	FP	茂垣	0
2	生駒		谷中	2
2	稲原		日吉	0
2	藤本	（審・伊松 藤原）	黒澤	0
3	志賀		阿部	1
5	酒巻		海老原	2
1	内田		峯場	3
7	荷川取		斉田	0
1	山本		守谷	2
5	奥田		鈴木	5
31	(0)	PT	(2)	15

京都ク 32（1814／7 8）15 鹿児島ク

○…試合開始早々2点連取と好スタートを切った鹿児島であったが、前半15分過ぎからエンジンのかかった京都のロング、速攻と多彩な攻撃の前にじりじりと点差を開けられた。後半に入っても決め手のない鹿児島に対し攻め手をゆるめない京都は着々と得点を重ね快勝した。（松原）

得	〔京都〕		〔鹿児島〕	得
0	咲本	GK	西	0
0	小幡		石原	0
3	堀田	FP	平山	3
0	林		馬場	1
5	国府		安田	1
8	西村	（審・中古 森冨）	安田	6
1	松井		亀沢	1
1	伊藤		有村	2
2	杉山		徳留	0
6	池辺		牧田	0
2	御牧		奥山	1
4	酒井		重吉	0
32	(6)	PT	(0)	15

日川ク（山梨）29（1415／8 6）14 愛媛選抜

○…立ち上がりスピードに勝る山梨が5点を連取し、試合の主導権を握った。その後も古屋、菊島のロングシュートを中心に加点し前半15─6とリードして終了。後半に入って、愛媛は今井の活躍で追い上げ15分には13─19の6点差としたが、その後は山梨の固いディフェンスとGKの好守に阻まれ追い上げもここまで、残り15分はまた山梨ペースとなり大差がついた。（中森）

得	〔山梨〕		〔愛媛〕	得
0	菊島	GK	鈴木	0
0	辻		藤田	0
3	武藤	FP	今井	7
3	関口		上井	0
4	古屋		小野	0
2	佐藤	（審・鳥大 田宮）	伊藤	2
0	佐藤		定岡	1
10	菊島		小笠原	0
0	広瀬		塩崎	3
7	朝生		北谷	0
0	武藤		川田	1
0	窪川		岩崎	0
29	(2)	PT	(3)	14

滋賀ク 27（1512／9 16）25 全熊本

○…立ち上がりは熊本が速攻でペースをつかみリードするが、後半に入って、滋賀はサイドシュート、速攻とたてつづけに得点、滋賀のペースとなる。結局滋賀が足の止まった熊本を一気に逆転して勝った。（島田）

得	〔滋賀〕		〔熊本〕	得
0	石田	GK	岩木	0
0	太田		阪本	0
5	位田	FP	田上	0
5	伊藤		斉所	1
5	能波		中村	2
6	井上	（審・中古 森冨）	佐伯	3
4	武田		長野	12
2	大野		岡崎	1
0	橋本		北島	2
0	松山		鯖江	0
0	西尾		荒田	0
0	林田		片山	4
27	(1)	PT	(2)	25

アシックスク（鳥取）27（1512／7 4）11 山形ク

○…立ち上がりより鳥取は古賀を中心にスピーディな攻撃でノーマークシュートを放つが、山形GK佐藤の好守で中盤まで6点。一方山形は、梁瀬の左サイドシュートでゲットをした。しかし次第に実力を発揮した鳥取が前半12─4の大差をつけた。後半に入っても鳥取のスピードは落ちることなく疲れの出た山形を一方的に27─11で破った。（福田）

得	〔鳥取〕		〔山形〕	得
0	渡井	GK	佐藤	0
0	佐々木		横瀬	0
1	森脇	FP	鎌田	4
2	仁志		柳谷	0
7	望月		加藤	0
1	西村	（審・大島 宮田）	瀧浪	1
4	古賀		岡崎	0
0	田中		阿部	2
2	小間		伊藤	3
1	松井		田中	0
8	児玉		梁瀬	0
1	稲葉		高橋	1
27	(3)	PT	(3)	11

全石川 26（1214／1312）25 茨城選抜

○…前半は一進一退の好ゲーム茨城・川上、石川・北岡のロングシュート、速攻も互いに得点するといった同じようなタイプでの試合展開であった。両チームGKの好守で盛り上がったが、後半茨城のミスで一時点差が開き、その後追い上げて再度同点まで行ったものの結局石川が辛くも1点差で逃げ切った。（島田）

〔茨城〕

	選手	得
GK	香川	0
GK	横田	0
FP	酒井	2
FP	安田	0
FP	篠崎	0
FP	柴沼	6
FP	鈴木	0
FP	遠藤	0
FP	川上	5
FP	杉森	10
FP	菊田	2
FP	上原	0
	計	25
	PT	(3)

〔石川〕

	選手	得
GK	竹中	0
GK	松本	0
FP	黒田	1
FP	角	0
FP	西田	1
FP	古橋	4
FP	藤井	4
FP	吉田	0
FP	酒井	2
FP	山本	0
FP	北岡	6
FP	上山	8
	計	26
	PT	(0)

（審・福田 松尾）

全富山 32 〔10－6 22－6〕 12 学法石川ク（福島）

○…前半、両チームともかみ合わず一進一退の試合運びとなるが、富山は残り9分、8分に秀永が速攻、カットインで2点連取してから点差を広げ、4点差をつける。後半に入っても富山が快調に得点をかせぎ、一方的な試合となる。（丸谷）

〔福島〕

	選手	得
GK	南條	0
GK	佐川	3
FP	遠藤	1
FP	鈴木	5
FP	南條	1
FP	有松	1
FP	大竹	1
FP	岡部	0
FP	松崎	0
FP	大竹	0
FP	鈴木	0
	計	12
	PT	(4)

〔富山〕

	選手	得
GK	水谷	0
GK	小坪	0
FP	越前	4
FP	小嶋	1
FP	矢田	5
FP	山崎	4
FP	中山	3
FP	栗山	2
FP	指崎	4
FP	中浦	4
FP	上田	2
FP	秀永	3
	計	32
	PT	(2)

（審・松原 伊藤）

栃の葉ク（栃木） 37 〔17－13 20－8〕 21 市岐商ク（岐阜）

○…岐阜が先行したが、同点に追いついてから栃木はペースをつかみ楽な試合となる。岐阜も前半4点差で折り返し後半の食い下がりが期待されたが、栃木の高い打点からのシュートに苦しんだ。（松屋）

〔岐阜〕

	選手	得
GK	武井	0
GK	村瀬	0
FP	斉藤	6
FP	横山	3
FP	柳原	0
FP	堀	3
FP	田中	0
FP	堀	0
FP	古川	1
FP	小林	7
FP	後藤	0
FP	鈴木	1
	計	21
	PT	(1)

〔栃木〕

	選手	得
GK	岩下	0
GK	高橋	0
FP	川田	3
FP	岸	0
FP	中山	3
FP	山本	0
FP	小西	1
FP	大出	0
FP	滝口	6
FP	武井	9
FP	名嘉	9
FP	薄井	6
	計	37
	PT	(3)

（審・丸谷 奥田）

大崎電気（埼玉） 38 〔22－6 16－14〕 20 浦添ク（沖縄）

○…沖縄は埼玉のディフェンスに対し宮城、上原のサイド攻撃を中心に攻撃するが、埼玉の堅いディフェンスにシュートに結びつけることが出来ない。埼玉は首藤、菅田を中心にミドルシュート、サイドシュートとよくボールを回し着々と得点をあげ、前半途中でゲーム内容を一方的にした。後半に入って沖縄はサイド、ポストとパスがよく通り反撃に転じたが、埼玉はセット攻撃、速攻と得点を重ね38－20で終了した。（真木）

〔沖縄〕

	選手	得
GK	新垣	0
GK	玉城	0
FP	高良	2
FP	高良	2
FP	新垣	0
FP	宮元	1
FP	宮城	3
FP	大城	0
FP	仲田	0
FP	上原	4
FP	喜舎場	7
FP	黒島	1
	計	20
	PT	(3)

〔埼玉〕

	選手	得
GK	岡部	0
GK	矢内	0
FP	松岡	6
FP	東江	4
FP	武田	2
FP	首藤	12
FP	中田	1
FP	大和田	0
FP	越迫	2
FP	菅田	8
FP	宮崎	0
FP	星野	3
	計	38
	PT	(5)

（審・萬場 早田）

全長野 37 〔17－11 20－10〕 21 全岡山

○…両チームとも立ち上がり固さがみられ、シュートミスが目立った。中盤よりやや岡山にリズムが傾いたように見えたが、長野が高さのプレーからポスト、サイドへパスがよく回り得点を重ね17－11で前半を終った。後半に入って岡山のシュートが単発のプレーになり、長野はこのシュートミスを速攻につなぎ得点を重ねる。特に矢島、菅沼を中心にセットプレーに確実性があり岡山の追撃を許さなかった。（真木）

〔岡山〕

	選手	得
GK	板野	0
GK	藤井	0
FP	中山	1
FP	竹内	0
FP	西田	2
FP	丸川	0
FP	大塚	5
FP	中谷	0
FP	佐藤	5
FP	上野	6
FP	赤木	2
FP	内藤	0
	計	21
	PT	(4)

〔長野〕

	選手	得
GK	小島	0
GK	片桐	0
FP	竹内	0
FP	塩川	8
FP	矢島	14
FP	行田	0
FP	小山	4
FP	岩下	4
FP	渡辺	4
FP	塩川	0
FP	黒岩	0
FP	菅沼	3
	計	37
	PT	(4)

（審・萬場 早田）

北九州ク（福岡） 28 〔12－12 16－13〕 25 花巻ク（岩手）

○…前半、岩手の吉田、中島などの速攻、サイドシュート、福岡の山崎、新谷のロングシュートなどのシーソーゲームで12－12の同点。後半も互角の試合であったが、福岡の山崎、新谷のシュートによりじりじりとリードしていった。（萬場）

〔岩手〕

	選手	得
GK	鎌田	0
GK	佐藤	0
FP	谷川	3
FP	櫛田	0
FP	中島	10
FP	及川	1
FP	伊藤	0
FP	近谷	1
FP	大沢	0
FP	山口	0
FP	吉田	5
FP	谷藤	5
	計	25
	PT	(4)

〔福岡〕

	選手	得
GK	岩崎	0
FP	大久保	3
FP	田尻	1
FP	角本	1
FP	中村	0
FP	新谷	6
FP	天野	0
FP	山崎	10
FP	森本	1
FP	藤田	4
FP	野口	2
	計	28
	PT	(5)

（審・真木 柳原）

大阪イーグルス 25 〔13－10 12－10〕 20 三景（東京）

○…大阪は成願、辻本のロング、速攻で得点をあげれば、東京は郡司、近藤の活躍で25分までシーソーゲームを展開、前半残り5分に東京に退場者が出て13－10と大阪が3点リードした。後半に入ると大阪の個人技、左攻撃が冴え、追いすがる東京をふり切った。（柳原）

〔東京〕

	選手	得
GK	中村	0
GK	北川	0
FP	田畑	6
FP	太田	1
FP	近藤	5
FP	高橋	1
FP	郡司	3
FP	福永	0
FP	田村	4
FP	山田	0
FP	岡部	0
FP	大谷	0
	計	20
	PT	(3)

〔大阪〕

	選手	得
GK	信貫	0
GK	本田	0
FP	勝本	2
FP	源野	3
FP	成願	4
FP	大西	3
FP	三ケ谷	0
FP	厚瀬	0
FP	太田	1
FP	岩本	5
FP	辻本	7
FP	杉尾	0
	計	25
	PT	(1)

（審・萬場 早田）

あかぎク（群馬） 20 〔9－6 11－7〕 13 わかくさク（奈良）

〔奈良〕

	選手	得
GK	佐伯	0
GK	小野	0
FP	佐川	0
FP	阪本	0
FP	福西	0
FP	小林	0
FP	上田	0
FP	金丸	4
FP	村田	2
FP	菅沼	4
FP	谷	2
FP	田中	1
	計	13
	PT	(0)

〔群馬〕

	選手	得
GK	譲原	0
GK	野口	0
FP	桜井	0
FP	小金沢	0
FP	斉藤	0
FP	今井	5
FP	長谷川	0
FP	岡田	4
FP	栗田	1
FP	石井	0
FP	高梨	6
FP	寺山	4
	計	20
	PT	(0)

（審・楠戸 石川）

○…前・後半ともにリズムに乗れない奈良に対して、群馬はGKの好守もあり全体の動きも良く、着々と得点した。（島崎）

山口県教員団 34（16－16、18－14）30 全宮崎

○…宮崎は立ち上がり固さが見られ、5分には山口・角のロングなどで4－1とリードする。その後宮崎は固さもとれ、サイド攻撃、カットインプレーなどがよく決まり、18－14と山口の4点リードで前半を終える。後半に入り宮崎がたてつづけに得点、2点差に詰め寄ったところで連続して退場者が出て山口に得点を許した。宮崎は山口・角にマンツーマンにつけ点の取り合いとなったが、総合力に勝る山口が34－30で勝利をものにした。（無署名）

得	〔山口〕		〔宮崎〕	得
0	吉村	GK	和田	0
0	加藤		石原	0
2	坂本	FP	巣立	0
0	赤地		田村	0
7	吉兼		石原口	3
13	角	（審・丸谷・奥田）	長野	6
7	片山		富永	8
4	原井		木切倉	4
1	中村		押川	2
0	河上		江藤	0
0	山崎		船木	7
0	岡村		曽原	0
34	(3)	PT	(3)	30

千葉教員 37（16－10、21－10）20 佐世保ク（長崎）

○…長崎は馬場を中心にポストプレーを多用しよく攻めたが、シュート力もやや弱く、守っても千葉・仲田の高い打点からのシュートに対する守りが弱く、速い攻めに対しての帰陣も遅れがちで、点差の開いた試合展開となった。（石川）

得	〔千葉〕		〔長崎〕	得
0	塩原	GK	金子	0
0	寺田		山口	0
2	山上	FP	田添	3
5	仲村		山崎	4
10	仲田		濱野	2
7	植村	（審・嶋崎・井上）	小浜	2
1	大村		山高	0
5	大鐘		山下	2
4	飯名		馬場	4
1	泉水		出口	2
1	加藤		橋本	0
1	浅原		馬場	1
37	(2)	PT	(0)	20

本田技研鈴鹿（三重）46（24－13、22－6）19 兵庫選抜

○…三重は良く走り、動き、確実に得点する。一方兵庫は、前半10分まで一進一退のゲーム展開をし、良くシュートを打つが、三重の固い守りのGKにたびたび阻止される。試合回数の豊富な三重は多彩な動きとシュートを見せて勝つ。（井上）

得	〔三重〕		〔兵庫〕	得
0	大畑	GK	近藤	0
0	中尾		馬場	0
5	佐々木	FP	浜田	2
2	三本松		岸本	2
7	田野		工藤	2
2	立木	（審・楠戸・石川）	松岡	8
3	内藤		大西	0
6	玉井		大崎	1
6	粟屋		山崎	0
7	吉山		竹内	2
3	田口		八幡	1
5	坂本		岡辺	1
46	(2)	PT	(2)	19

▼3回戦

湧永製薬（広島）32（18－9、14－8）17 京都ク

○…開始早々、京都は2連続得点し先行したものの、地力に勝る広島は多彩な攻撃で着実に加点し快勝。（大原）

得	〔広島〕		〔京都〕	得
0	大城	GK	咲本	0
0	井藤		小幡	0
8	池ノ上	FP	堀田	0
4	生駒		林	1
2	栖原		国府	3
2	藤本	（審・松原・伊藤）	西村	3
1	志賀		松井	4
5	酒巻		伊藤	0
1	内田		杉山	1
2	荷川取		池辺	4
4	山本		御牧	1
2	奥田		酒井	0
32	(3)	PT	(3)	17

滋賀ク 29（14－12、15－15）27 日川ク（山梨）

○…山梨・武藤の速攻、菊島、朝生のミドルシュートを中心にした攻撃、滋賀は伊藤、能波を中心に井上の速攻と各々チームの特徴を出し、15－15で前半を終了。後半に入り滋賀は能波のミドル、井上の速攻で得点、山梨も朝生のミドルシュートを中心に反撃、各々得点を重ねるが、やや滋賀の動きが良く、山梨を少差でふり切った。（真木）

得	〔滋賀〕		〔山梨〕	得
0	石田	GK	菊島	0
0	太田		辻	0
4	位田	FP	武藤	7
6	伊藤		関口	0
6	能波		古屋	4
7	井上	（審・楠戸・石川）	佐藤	0
2	武田		佐藤	0
3	大野		菊島	5
0	橋山		広瀬	2
0	松山		朝生	9
0	西尾		武藤	0
1	林田		窪	0
29	(1)	PT	(3)	27

アシックスク（鳥取）31（19－7、12－14）21 全石川

○…立ち上がり固さが見られミスも多い鳥取に対し、石川は落着いたプレーで終始リードし、14－12で前半を終了。後半も一進一退の攻防はつづくかに見えたが、8分すぎ鳥取は2本のペナルティーを決め同点。9分すぎに逆転に成功、その後動きも良くなりペースをつかんだ。

逆に石川は、2人の退場者が出て攻守のリズムが乱れてしまった。（奥田）

得	〔鳥取〕		〔石川〕	得
0	渡井	GK	竹中	0
0	佐々木		松本	0
1	森脇	FP	黒田	1
1	仁志		角	0
7	望月		西田	1
1	西村	（審・北山・大原）	古橋	3
4	古賀		藤井	5
5	田中		吉田	0
4	小間		酒井	3
0	松井		山本	1
8	児玉		北岡	2
0	稲葉		土山	5
31	(4)	PT	(2)	21

栃の葉ク（栃木）35（15－13、12－14、3－2、0－1、2－1、3－2）33 全富田

○…両チームとも前半よく似たゲーム運びでシーソーゲームをくり返す。後半、徐々に栃木の動きが良くなり、点差を開けて行くが、富山も20分すぎから反撃し、残り2分で同点とし延長戦に入る。第1延長、第2延長へと入り、両チームGKがよく守り一進一退の展開であったが、栃木が勝利を得た。（井上）

得	〔富山〕		〔栃木〕	得
0	水谷	GK	岩下	0
0	小坪		高橋	0
10	越前	FP	川田	0
3	小嶋		岸	0
0	矢田		中山	2
1	山崎		山本	0
6	中山		小西	1
1	栗山		大出	1
4	指崎		滝口	11
4	中浦		武井	10
0	上田		名嘉	4
4	秀永		薄井	6
33	(1)	PT	(4)	35

（審・真木 柳原）

大崎電気（埼玉）34（16—10、18—6）16 全長野

○…長野は前半8分すぎまで押し気味に試合を進めるが、埼玉GKの再三の好守に阻まれ1点に押さえられる。一方埼玉は、8分すぎからペースをつかみ着実に加点前半で試合を決める。ラフプレーが目立つ試合であった。（渡辺）

得	〔長野〕		〔埼玉〕	得
0	小島	GK	岡部	0
0	片桐		矢内	0
0	竹内	FP	松岡	7
3	塩川		東江	8
6	矢島		武田	3
0	行田		首藤	11
1	小山		中田	0
4	岩下		大和田	0
0	渡辺		越迫	2
0	塩川		菅田	2
0	黒岩		宮崎	0
2	菅沼		星野	1
16	(1)	PT	(4)	34

（審・萬場 早田）

大阪イーグルス 27（14—9、13—13）22 北九州ク（福岡）

○…前半10すぎまで福岡に固さが見え大阪のディフェンスを突破出来ずに苦しむが、8分すぎから辻本にマンツ！することによりミスを誘い、一進一退の攻防となり、13—13の同点で折り返す。後半12分すぎ、福岡・角本の退場により大阪が要所を締め着実にポイントを重ね試合を決定づける。（国府）

得	〔福岡〕		〔大阪〕	得
0	岩崎	GK	信貴	0
5	大久保		本田	0
1	田尻	FP	勝本	1
1	角本		源野	3
0	中村		成願	6
2	新谷		大西	3
0	天野		三谷	2
2	山崎		厚ヶ瀬	1
4	森本		太田	0
3	藤田		岩本	2
4	野口		辻本	8
			杉尾	1
22	(2)	PT	(3)	27

（審・古富 中森）

あかぎク（群馬）25（11—7、14—11）18 山口教員団

○…両チームともスローなスタートで始まった。前半は波に乗れない山口に対し着実に得点をした群馬が3点差をつけて終了した。後半は両チームともシュートミスが多く、中盤は両チームとも10分間無得点が各々あった、山口の速攻もなく反対に外からのシュート、カットインなどの攻めで群馬が逃げ切った。（丹田）

得	〔山口〕		〔群馬〕	得
0	吉村	GK	譲原	0
0	加藤		野口	0
1	坂本	FP	桜井	0
0	赤地		小金沢	0
3	吉兼		斉藤	6
5	角		今井	4
2	片山		長谷川	0
6	原井		岡田	4
0	中村		栗田	2
0	河上		石井	2
1	山崎		高梨	4
0	岡村		寺山	3
18	(0)	PT	(2)	25

（審・中本 渡辺）

本田技研鈴鹿（三重）41（16—5、25—7）12 千葉教員

○…総合力で勝る三重は、一方的な攻撃で千葉を全く寄せつけず勝利をつかんだ。千葉もよく頑張った。（大宮）

得	〔千葉〕		〔三重〕	得
0	塩原	GK	大畑	0
0	寺田		中尾	0
0	山上	FP	佐々木	3
3	仲村		三本松	1
5	仲田		田野	5
0	植村		立木	7
0	大村		内藤	3
3	大鐘		玉井	4
1	飯名		粟屋	7
0	泉水		吉山	8
0	加藤		田口	1
0	浅原		坂本	2
12	(2)	PT	(3)	41

（審・辻 国府）

▼4回戦

湧永製薬（広島）31（18—8、13—2）10 滋賀ク

○…前半滋賀は、生駒、池ノ上をマンツーマンディフェンス。両者動く気配なく、4分までは互角の展開。しかし、ディフェンス、攻撃とも一枚上の広島、シュートブロックから再三速攻を展開し、一方的試合となる。後半も広島がパスカットから再三速攻、31—10で終了。（早田）

得	〔滋賀〕		〔広島〕	得
0	石田	GK	大城	0
0	太田		井藤	0
0	位田	FP	池ノ上	9
3	伊藤		生駒	2
1	能波		楢原	0
3	井上		藤本	3
2	武田		志賀	3
1	大野		酒巻	5
0	橋山		内田	2
0	松山		山本	3
0	西尾		奥田	4
0	林田			
10	(0)	PT	(3)	31

（審・楠戸 石川）

アシックスク（鳥取）27（14—9、13—10）19 栃の葉ク（栃木）

○…前半、栃木はロング、ポストシュート、鳥取はロング、速攻などで互角の試合であった。後半に入り、鳥取は森脇、望月の速攻、ポストシュートで連続6得点をあげリズムに乗って27—19で勝った。（萬場）

得	〔栃木〕		〔鳥取〕	得
0	岩下	GK	渡井	0
0	高橋		佐々木	0
1	川田	FP	森脇	6
0	岸		仁志	0
4	中山		望月	5
0	山本		西村	0
0	小西		古賀	2
0	大出		田中	2
7	滝口		小間	6
2	武井		松井	0
3	名嘉		児玉	6
2	薄井		稲葉	0
19	(2)	PT	(1)	27

（審・中本 渡辺）

大崎電気（埼玉）28（12—13、16—11）24 大阪イーグルス

○…大阪・辻本、埼玉・首藤を中心に好試合が展開された。埼玉は20分すぎに10—9と逆転し、GKの好守もありじりじりと差をつけた。後半に入り大阪も粘りを見せ、12分すぎに2点差と追い上げた。その後互いに点を取り合いシーソーゲームとなるが、27分から埼玉が4点連取して逃げ切った。（古富）

得	〔大阪〕		〔埼玉〕	得
0	信貴	GK	矢内	0
0	本田		松岡	1
0	勝本	FP	東江	5
6	源野		武田	4
5	成願		首藤	12
0	大西		中田	0
0	三谷		大和田	0
0	厚ヶ瀬		越迫	3
0	太田		菅田	3
3	岩本		宮崎	0
10	辻本		星野	0
0	杉尾			
24	(2)	PT	(1)	28

（審・島田 大宮）

本田技研鈴鹿（三重） 40 〔19—12 21—6〕 18 あかぎクラブ（群馬）

○…総合力に勝る三重は、立ち上がりから多彩な攻撃で着々と加点した。一方群馬も巧者・斉藤を中心に岡田の活躍で反撃するが、三重GK大畑の好守に阻まれ、21—6で前半を終了。後半に入っても三重は攻撃の手をゆるめず大差で勝った。（中森）

〔三重〕	得		得	〔群馬〕
大畑	0	GK	0	讓原
中尾	0		0	野口
佐々木	4	FP	0	桜井
三本松	0		2	小金沢
田野	5		2	斉藤
立木	4		2	今井
内藤	2		0	長谷川
玉井	3		5	岡田
栗屋	8		0	栗田
吉山	7		0	石井
田口	2		6	高橋
坂本	5		1	寺山
40	(4)	PT	(1)	18

（審・松原、伊藤）

▼準決勝

湧永製薬（広島） 23 〔13—7 10—6〕 13 アシックスク（鳥取）

○…試合開始2本の速攻で得点鳥取が優位に試合が運ばれたが、広島はディフェンスチェックを強く、厚い守りからの速攻で得点、少しずつリードを広げる。鳥取も激しい気迫を見せ善戦、実力に勝る広島が勝利を得る。（辻）

〔広島〕	得		得	〔鳥取〕
大城	0	GK	0	渡井
井藤	0		0	佐々木
池ノ上	6	FP	2	森脇
生駒	3		0	仁志
楢原	2		1	望月
藤本	0		0	西村
志賀	4		0	古賀
酒巻	0		2	田中
内田	0		7	小間
			1	松井
山本	8		0	児玉
奥田	0		0	稲葉
23	(2)	PT	(1)	13

（審・清水、丹田）

本田技研鈴鹿（三重） 23 〔10—7 13—7〕 14 大崎電気（埼玉）

○…前半8分まで1点差のゲームがつづいたが、その後埼玉は三重の厳しいつめに攻めあぐみ13分間得点することが出来ず、その間速攻、ロングなどで確実にシュートを決め点差を開けた。後半も三重のペースで進み、埼玉もよく攻めていくが、三重の堅いディフェンスを破ることは出来ず点差を縮めることが出来なかった。（増田）

〔三重〕	得		得	〔埼玉〕
大畑	0	GK	0	矢内
中尾	0	FP	3	松岡
佐々木	1		3	東江
三本松	0		3	武田
田野	2		2	首藤
立木	7		0	中田
内藤	0		0	大和田
栗屋	1		3	越迫
吉山	2		0	菅田
田口	3		0	宮崎
坂本	6		0	星野
23	(2)	PT	(0)	14

（審・福田、松尾）

▼3位決定戦

大崎電気（埼玉） 24 〔15—6 9—11〕 17 アシックスク（鳥取）

○…速攻の埼玉、高さの埼玉、両者よく鍛えられており一進一退の試合展開となる。前半終盤には埼玉・小間、田中のロングシュートも決まり11—9と埼玉のリードで前半終了。後半に入り埼玉は底力を発揮、押し気味に試合を展開、逆転で勝利を握った。（早田）

〔埼玉〕	得		得	〔鳥取〕
矢内	0	GK	0	渡井
松岡	7	FP	0	佐々木
東江	5		2	森脇
武田	0		0	仁志
首藤	8		2	望月
中田	1		0	西村
大和田	0		0	古賀
越迫	2		5	田中
菅田	1		4	小間
宮崎	0		0	松井
星野	0		4	児玉
			0	稲葉
24	(1)	PT	(3)	17

（審・中本、渡辺）

▼決勝

湧永製薬（広島） 21 〔11—7 10—13〕 20 本田技研鈴鹿（三重）

○…三重・坂本の速攻シュートによって始まった試合であり、両チームともにシュートミスの少ない展開であったが、常に三重が先行する形での一進一退の攻防がつづいたが、残り30秒に広島が逆転に成功、勝利を握った。（萬場）

〔広島〕	得		得	〔三重〕
大城	0	GK	0	大畑
井藤	0		0	中尾
池ノ上	5	FP	0	佐々木
生駒	7		0	三本松
楢原	1		0	田野
藤本	1		3	立木
志賀	1		0	内藤
酒巻	1		0	玉井
内田	0		4	栗屋
山本	5		7	吉山
奥田	0		2	田口
			4	坂本
21	(1)	PT	(0)	20

（審・島崎、井上）

成年男子決勝。速攻からシュートを放つ三重・粟屋

〈成年女子〉

▼1回戦

ムネカタ（福島）22〔9―9 13―4〕13 広島ク

○…前半、両者とも速攻とサイドシュートで得点、9―9で終了。後半、地力に勝る福島は速攻を主体に徐々に点差を広げる。広島GKもノーマークシュートを取るなど健闘したが、22―13で終了。（早田）

得	〔福島〕		〔広島〕	得
0	遠藤	GK	上越	0
0	清水		永岡	0
2	藤谷		本西	0
4	岡部		山田	2
0	吉田	FP	水木	0
6	小林		波多	5
0	海野		河野	1
6	酒井	（審・奥田	藤岡	0
2	和知		高松	0
1	佐藤	丸谷）	池田	2
1	田村		楠	2
0	太田		田中	1
22	(2)	PT	(1)	13

北国銀行（石川）28〔15―3 13―5〕8 えひめ

○…前、後半を通して愛媛は石川の厚いディフェンスの壁を破ることが出来ず、得点を重ねることが出来なかった。一方、石川は愛媛のミスを生かし着々と得点を重ね一方的な試合展開で石川の圧勝に終ったが、愛媛はベテラン勢の健闘がいい印象を与えよく頑張った。（清水）

得	〔石川〕		〔愛媛〕	得
0	辻	GK	藤井	0
0	新宅		高橋	0
6	中川		大館	5
2	林		塩崎	0
1	河原	FP	白石	0
1	中田		田鍋	1
6	松下		秋山	0
0	荒	（審・楠戸	松浦	2
1	藤田		村上	0
6	丸山	石川）	黒瀬	0
4	小玉		塩田	0
1	古田		高橋	0
28	(3)	PT	(4)	8

ブラザー工業（愛知）31〔15―5 16―5〕10 全岡山

○…試合開始より日本リーグチームの愛知は岡山を相手とせず、15分まで無失点とゲームを一方的に展開、前半と15―5と大差で折り返す。後半も岡山は単発的なシュートで愛知の守りを崩すことが出来ず、愛知はスピードある攻撃力で岡山を一方的に破った。（福田）

得	〔愛知〕		〔岡山〕	得
0	畑添	GK	宮崎	0
0	大藪		樋口	0
3	荒木		白石	3
4	小池		大塚	0
8	赤井	FP	佃	3
4	中村		藤原	0
4	坂倉		三原	0
3	太田	（審・古富	渡辺	0
0	室屋		吉本	0
3	奥山	中森）	下田	0
0	森山		奥原	4
2	松下		野瀬	0
31	(4)	PT	(1)	10

▼2回戦

音響機山鹿（熊本）23〔11―4 12―6〕10 ムネカタ（福島）

○…立ち上がりの5分を3―0のリードでスタートした熊本は、その後も野嶋、山内のロングシュートや速攻で加点していった。一方福島は、熊本の堅いディフェンスとGK荒木の好守に阻まれ得点に結びつけることが出来ず11―4で前半を終了した。後半に入って後半は長身・海野をポストに入れ小林、吉田などが積極的に攻めたが、多彩な攻撃を誇る熊本にじりじりと点差を開けられてしまった。（伊藤）

得	〔熊本〕		〔福島〕	得
0	荒木	GK	遠藤	0
0	竹下		清水	0
1	横田		藤谷	2
1	近藤		岡部	1
2	亀園	FP	吉田	0
1	岩村		小林	7
0	池上		海野	0
0	江口	（審・古富	酒井	0
2	山口		和知	0
9	山内	中森）	佐藤	0
7	野嶋		田村	0
0	田中		太田	0
23	(2)	PT	(3)	10

アシックスク（鳥取）37〔22―3 15―6〕9 上磯ク（北海道）

○…地元で気合の入る鳥取は、大変に早い動きから確実に得点を重ね、前半で勝負を決める。チーム全員一丸となり、足を使い、ブロンジョンシュートで倒れ込む素晴しいゲームであった。北海道も最後までよく頑張った。（大宮）

得	〔鳥取〕		〔北海道〕	得
0	吉田	GK	小松	0
0	糸井		吉野	0
9	神並		清川	1
1	筒井		大原	0
5	久保	FP	佐藤	1
5	神並		小浜	0
4	谷本		狩野	1
1	松下	（審・福田	川上	0
0	黒川			
5	福浦	松尾）	横山	3
4	三谷		藤本	3
3	松永		大吉	0
37	(4)	PT	(1)	9

大和銀行（大阪）31〔17―6 14―7〕13 北国銀行（石川）

○…前半、石川は大阪のディフェンスを攻めあぐみ、シュートミスを速攻で返され17―6で前半を終了。後半も石川は大阪を攻め切れず、パスミス、シュートミスが目立ち大阪の一方的試合展開となり31―13で終了。（早田）

得	〔大阪〕		〔石川〕	県
0	高浜	GK	辻	0
0	増見		新宅	0
5	秋成		中川	2
5	上村		林	2
5	川添	FP	河原	1
2	若水		中田	2
5	植田		松下	5
4	天谷	（審・真木	荒	0
0	前田		藤田	1
2	丸田	柳原）	丸山	0
0	西野		小玉	0
3	佐々木		古田	0
31	(3)	PT	(1)	13

日立栃木 28〔15―8 13―7〕15 ブラザー工業（愛知）

○…前田のサイドシュートで幸先良いスタートを切った栃木は、その後も多彩な攻撃で着実に得点した。愛知も粘り強く攻めるが、栃木の好ディフェンスを破れず、逆に速攻を許してしまった。点差こそ開いたが、両チームとも最後

得	〔栃木〕		〔愛知〕	得
0	葛生	GK	畑添	0
0	岡本		大藪	0
3	手打		荒木	0
12	前田		小池	3
2	清水	FP	赤井	2
1	尾苗		中村	1
2	吉田		坂倉	4
4	山本	（審・島崎	太田	3
4	山岸		室屋	0
0	中村	井上）	奥山	0
0	山口		森山	0
0	菅原		松下	2
28	(3)	PT	(1)	15

まで良く走り、内容の充実した好ゲームであった。（奥田）

▼準決勝

立石電機山鹿（熊本）25〔13−4 12−5〕9 アシックスク（鳥取）

○…立ち上がり鳥取はPTで先取点をあげたが、熊本はロング、速攻と得点をあげた。鳥取は熊本のディフェンスのスキを狙いカットインするのが精一杯で、前半13−5と熊本リードで終わる。後半鳥取もよく頑張り善戦するが、熊本の高いディフェンスを攻め切れなかった。（増田）

得	〔熊本〕		〔鳥取〕	得
0	荒木	GK	吉田	0
0	竹下	GK	糸井	0
0	横田	FP	神並	4
0	近藤	FP	筒井	0
0	亀園	FP	久保	1
5	岩村	FP	神並	4
3	池上	FP	谷本	0
0	江口	FP	松下	0
0	山口	FP	黒川	0
9	山内	FP	福浦	0
8	野嶋	FP	三谷	0
0	田中	FP	松永	0
		（審・清水 丹田）		
25	4	PT	(4)	9

日立栃木19〔14−9 5−8〕17 大和銀行（大阪）

○…前半、栃木は前田の活躍でリードしたが、後半に入ると大阪GKのファインプレーが出だして終始大阪のペースとなる。

大阪は栃木・前田のマンツーマンが成功したが、惜しくも敗れた。（島崎）

得	〔栃木〕		〔大阪〕	得
0	葛生	GK	高浜	0
0	岡本	GK	増見	0
0	手打	FP	秋成	6
8	前田	FP	上村	1
3	清水	FP	川添	1
0	尾苗	FP	若水	2
3	吉田	FP	植田	2
3	山本	FP	天谷	0
2	山岸	FP	前田	0
0	中村	FP	丸田	1
0	山口	FP	西野	0
0	菅原	FP	佐々木	4
		（審・島田 大宮）		
19	(3)	PT	(3)	17

▼3位決定戦

大和銀行（大阪）21〔12−3 9−6〕9 アシックスク（鳥取）

○…栃木が鳥取のミスに乗じ着実に得点を重ね快勝した。地元鳥取も全員一丸となり最後まで持てる力を十分に発揮し健闘する。とりわけGK吉岡の好守が光る好ゲームであった。（国府）

得	〔大阪〕		〔鳥取〕	得
0	高浜	GK	吉田	0
0	増見	GK	糸井	0
2	秋成	FP	神並	4
3	上村	FP	筒井	1
0	川添	FP	久保	1
6	若水	FP	神並	2
6	植田	FP	谷本	1
0	天谷	FP	松下	0
0	前田	FP	黒川	0
2	丸田	FP	福浦	0
0	西野	FP	三谷	0
2	佐々木	FP	松永	0
		（審・古富 中森）		
21	(2)	PT	(3)	9

▼決勝

日立栃木20〔12−5 8−11〕16 立石電機山鹿（熊本）

○…前半15分までは接戦だったが、熊本は15分から24分までノーゴール。その間栃木は前田がマンツーされると山岸がよく決め、GKの好守もあって12−5で折り返す。後半は熊本が必死に追い上げたが、及ばなかった。（島崎）

得	〔栃木〕		〔熊本〕	得
0	葛生	GK	荒木	0
0	岡本	GK	竹下	0
3	手打	FP	横田	0
7	前田	FP	近藤	2
3	清水	FP	亀園	1
0	尾苗	FP	岩村	2
1	吉田	FP	池上	0
1	山本	FP	江口	0
5	山岸	FP	山口	1
0	中村	FP	山内	1
0	山口	FP	野嶋	9
0	菅原	FP	田中	0
		（審・奥田 丸谷）		
20	(3)	PT	(4)	16

成年女子決勝。強引にシュートを打つ熊本・岩村

〈少年男子〉

▼1回戦

愛媛選抜24〔11−11 13−6〕17 大阪高校選抜

○…前半、大阪は巧妙なパスワークから全員が着実に得点に対し愛媛は長嶺がマンツーマンで守られながらそれを振り切り、ほとんどの得点を入れ11−11の同点で後半にもつれこんだ。後半、大阪・加地がよく頑張ったが、愛媛・長嶺の素晴しいシュートの切れには及ばなかった。（無署名）

得	〔愛媛〕		〔大阪〕	得
0	山口	GK	浅澤	0
0	竹内	GK	根津	0
4	高石	FP	鍋木	2
3	西原	FP	小林	3
0	村上	FP	加地	8
2	萬屋	FP	大倉	2
0	内山	FP	長谷川	2
11	長嶺	FP	高橋	0
3	佐藤	FP	伊地知	0
0	奥田	FP	大畑	0
1	石川	FP	南	0
0	作道	FP	井上	0
		（審・増田 中森）		
24	(1)	PT	(4)	17

わかとり（鳥取）25〔12−3 13−7〕10 全岩手

○…地元の大声援を受けた鳥取は立ち上がり動きが固くミスが多かったが、岩手のシュートミス、鳥取GKの好守で失点を防ぎ、10分すぎようやく動きがよくなり、着々と加点した。岩手に攻撃の決め手がなかった。（中村）

得	〔鳥取〕		〔岩手〕	得
1	野村	GK	佐々木	0
0	桑本	GK	館林	0
2	赤山	FP	岩角	0
4	滝本	FP	小口	1
6	吉田	FP	曽原	1
3	本地	FP	上杉	0
2	木下	FP	藤原	3
1	増馬	FP	中村	2
2	櫛田	FP	田村	1
0	曽田	FP	三田	1
2	角	FP	高橋	1
2	高野	FP	照井	0
25	(1)	PT	(0)	10

（審・北山、大原）

全石川 21 （8―10 10―8 2―1 1―1） 20 岡山選抜

○…立ち上がり固さが見られた両チームであったが、石川・太田の得点後固さもほぐれ、速攻の岡山に対しセットの石川。岡山はよく走り残り3分まで3点リードしていたが、勝ちを意識したのか動きが止まり3点連取され延長戦に入る。延長戦も一進一退であったが、テクニックに勝る石川が、残り10秒、古谷の左サイドシュートで勝敗を決める。（大原）

得	〔石川〕		〔岡山〕	得
0	釜田	GK	小橋	0
0	秋田	GK	福武	0
3	吉田	FP	剣持	0
2	松本	FP	同前	2
3	古谷	FP	田尻	0
5	吉田	FP	東	5
5	太田	FP	石原	5
0	今江	FP	大森	2
0	中井	FP	山本	2
3	関戸	FP	柚木	0
0	中出	FP	河合	4
0	吉村	FP	影山	0
21	(4)	PT	(4)	20

（審・中村、増田）

▼2回戦

山口県高校選抜 30 （17―7 13―15） 22 愛媛選抜

○…立ち上がりから愛媛のポストプレー、サイドプレー、ミドルシュートと多種多様な攻撃に対し山口は速攻及びミドルシュートで対抗し一進一退の好ゲームとなる。前半は15―13と愛媛が2点をリード。後半に入り山口は多彩な攻撃から得点を重ねた。一方愛媛は、長嶺にボールを集めすぎ動きが止まり敗退した。（清水）

得	〔山口〕		〔愛媛〕	得
0	下宮	GK	山口	0
0	岡本	GK	竹内	0
3	松本	FP	高石	2
12	千葉	FP	西原	2
5	笹川	FP	村上	0
2	藤本	FP	萬屋	6
0	上村	FP	内山	0
8	白石	FP	長嶺	8
0	三牧	FP	佐藤	2
0	竹村	FP	奥田	0
0	前田	FP	石川	2
0	柏崎	FP	作道	0
30	(4)	PT	(1)	22

（審・中本、渡辺）

愛知選抜 25 （12―11 13―10） 21 沖縄県選抜

○…前半は両チームともディフェンスに苦労し、一進一退をくり返した。後半に入り、愛知・三輪、沖縄・宣保がマンツーマンでつかれたため思うように得点出来なかったが、愛知・加藤のジャンプシュートがよく決まり逃げ切った。（丹田）

得	〔愛知〕		〔沖縄〕	得
0	西井	GK	比嘉	0
0	馬淵	GK	稲福	0
4	大橋	FP	宮城	4
4	大沢	FP	具志堅	1
6	三輪	FP	上原	3
2	鹿嶌	FP	与儀	0
1	堀田	FP	宣保	5
0	多田	FP	西原	3
0	山下	FP	喜友名	5
8	加藤	FP	高島	0
0	久保田	FP	金城	0
0	疋田	FP	我如古	0
25	(2)	PT	(0)	21

（審・辻、国府）

わかとり（鳥取） 22 （8―4 14―9） 13 北海道選抜

○…前半開始直後、鳥取・赤山のロングシュートに対し北海道は相馬のカットインで対抗した。その後両チームとも決め手がなく単調なゲーム展開となり、8―4で前半を終える。後半に入り北海道のミスが目立ち、鳥取が速攻で得点を重ね勝利を握った。（清水）

得	〔鳥取〕		〔北海道〕	得
0	野村	GK	野村	0
0	桑本	GK	須藤	0
5	赤山	FP	池田	0
1	滝本	FP	久保田	0
7	吉田	FP	古田	0
5	本池	FP	小泉	1
3	木下	FP	煤賀	0
1	増馬	FP	井口	0
0	櫛田	FP	境谷	0
0	曽田	FP	相馬	7
0	角	FP	福士	1
0	高野	FP	伊藤	4
22	(6)	PT	(0)	13

（審・中本、渡辺）

全石川 21 （10―9 11―11） 20 群馬選抜

○…前半はお互い少ないチャンスを生かし、群馬は外からのシュート中心、石川は速攻とサイドシュート中心に攻め、11―11と一歩も譲らず、勝負は後半へと持ち込まれた。後半に入り、石川のディフェンスが足を使い速いチェックをし始めたため、ロングシュートが入らなくなった。逆に石川は多くのノーマークミスにかかわらず辛くも1点差で逃げ切った。（丹田）

得	〔石川〕		〔群馬〕	得
0	釜田	GK	神保	0
0	秋田	GK	清水	0
5	吉田	FP	斎藤	3
0	松本	FP	井森	3
4	古谷	FP	加藤	5
4	吉田	FP	岩井	0
6	太田	FP	東崎	4
0	今江	FP	田村	2
0	中井	FP	井上	0
2	関戸	FP	岡部	0
0	中出	FP	小金沢	3
0	吉村	FP	篠崎	0
21	(3)	PT	(0)	20

（審・辻、国府）

▼準決勝

山口県高校選抜 24 （13―8 11―12） 20 愛知選抜

○…前半、山口はポストプレー、一方愛知は走り込んでのミドルシュートで対抗し、12―11と愛知の1点リードで終わる。後半に入り両チームともに雑な攻めからのミスを得点に結びつけ一進一退のゲームとなったが、20分すぎ愛知に退場者が出たスキに山口が得点し逃げ切った。（清水）

得	〔山口〕		〔愛知〕	得
0	下宮	GK	西井	0
0	岡本	GK	馬淵	0
1	松本	FP	大橋	6
13	千葉	FP	大沢	2
2	笹川	FP	三輪	1
5	藤本	FP	鹿嶌	7
2	上村	FP	堀田	2
1	白石	FP	多田	0
0	三牧	FP	山下	0
0	竹村	FP	加藤	0
0	前田	FP	久保田	2
0	柏崎	FP	疋田	0
24	(8)	PT	(3)	20

（審・丸谷、奥田）

全石川 18 （7―12 11―5） 17 わかとり（鳥取）

○…多くの応援を受け、足を使って攻撃を展開する鳥取だが、シュートが今一つ決まらず苦しい戦いとなる。一方、石川は吉田を中心にロング、速攻と得点、11―5

で後半に入る。後半10分すぎ、動きが止まり攻撃が単調になった石川に対し速攻などで激しく追い上げた鳥取だが、結局1点差で石川が逃げ切った。（辻）

	〔鳥取〕	得	〔石川〕	得
GK	野村	0	釜田	0
GK	桑本	0	秋田	0
FP	赤山	6	吉田	6
FP	滝本	0	松本	0
FP	吉田	4	古谷	2
FP	本池	5	吉田	3
FP	木下	2	太田	1
FP	増馬	0	今江	0
FP	櫛田	0	中井	0
FP	曽田	0	関戸	6
FP	角	0	中出	0
FP	高野	0	吉村	0
PT	(4)	17	(1)	18

（審・福田、松尾）

▼3位決定戦

愛知選抜 19（7－7、12－8）15 わかとり（鳥取）

○…前半、愛知・大橋のシュートによって始まった試合は、鳥取・吉田、木下の得点などで一進一退のゆっくりとしたペースで展開し、同点で前半を折り返した。後半は常に愛知が先行する展開で、19—15で逃げ切った。（萬場）

	〔鳥取〕	得	〔愛知〕	得
GK	野村	0	西井	0
GK	桑本	0	馬淵	0
FP	赤山	3	大橋	4
FP	滝本	1	大沢	1
FP	吉田	1	三輪	6
FP	本池	7	鹿嶌	0
FP	木下	3	堀田	2
FP	増馬	0	多田	1
FP	櫛田	0	山下	2
FP	曽田	0	加藤	1
FP	角	0	久保田	0
FP	高野	0	疋田	2
PT	(2)	15	(1)	19

（審・中本、渡辺）

▼決勝

山口県高校選抜 23（11－11、12－11）22 全石川

○…前半の中盤まで石川が3点をリード、終盤に山口が追いつき決勝戦らしいシーソーゲームとなる。後半に入り両者とも速攻を主体に早い試合展開となり、残り5分で18—18。しかし、残り3分から山口が速攻で3点連取、決定したかに見えたが、石川も盛り返し1点差まで追い上げたが、時間ぎれ、決勝戦らしい素晴しい試合であった。（早田）

	〔石川〕	得	〔山口〕	得
GK	釜田	0	下宮	0
GK	秋田	0	岡本	0
FP	吉田	4	松本	2
FP	松本	1	千葉	6
FP	古谷	7	笹川	3
FP	吉田	1	藤本	6
FP	太田	6	上村	2
FP	今江	0	白石	4
FP	中井	2	三牧	0
FP	関戸	1	竹村	0
FP	中出	0	前田	0
FP	吉村	0	柏崎	0
PT	(2)	22	(1)	24

（審・島崎、井上）

〈少年女子〉

▼1回戦

沖縄選抜 24（11－5、13－12）17 大曲農高（秋田）

○…前半はお互いにパス、シュートのミスが多く、沖縄の比嘉のシュート力の差がスコアに出た。後半は、秋田の速攻も出たが、チームワークのとれた沖縄の勝利。（島崎）

	〔秋田〕	得	〔沖縄〕	得
GK	大山	0	仲田	0
GK	加賀	0	上江洲	0
FP	高田	0	米須	0
FP	新田	6	比嘉	15
FP	鈴木	4	松田	3
FP	三浦	5	仲宗根	1
FP	青谷	1	松田	1
FP	佐藤	0	宮城	0
FP	星宮	0	古田	0
FP	千田	1	高良	1
FP	畑山	0	新垣	0
FP	松塚	0	松田	3
PT	(2)	17	(5)	24

（審・中本、渡辺）

熊本選抜 20（7－7、13－9）16 山口県選抜

○…1回戦で全国トップレベル同士のカードとなった。立ち上がり熊本・斉藤のロングで2点連取するが、山口も反撃しシーソーゲームになる。後半5分、山口のミスに乗じて3点差になりそのまま熊本ペースになるが、山口も意地を見せて食い下がり4点差でゲームを終了する。（渡辺）

	〔山口〕	得	〔熊本〕	得
GK	中川	0	清田	0
GK	兼重	0	平田	0
FP	三崎	1	村橋	0
FP	小池	6	林田	1
FP	渡辺	1	中山	4
FP	渡辺	3	斉藤	5
FP	藤村	1	田野辺	4
FP	三牧	1	土本	1
FP	福田	2	河上	0
FP	田村	0	酒井	0
FP	佐野	0	河野	0
FP	久行	1	中山	5
PT	(3)	16	(0)	20

（審・島崎、井上）

千葉選抜 29（14－5、15－7）12 北海道選抜

○…試合開始後千葉5点リード、北海道も佐藤のロングなどで反撃するが、特にディフェンスが悪く、また、パスミスが目立ち加点される。後半に入っても千葉の防御がよく、攻撃も速攻、ポストプレーなどで勝利を得た。（井上）

	〔北海道〕	得	〔千葉〕	得
GK	吉田	0	木内	0
GK	長谷川	0	松丸	0
FP	佐藤	6	大塚	3
FP	新山	1	菅沼	4
FP	秋田	3	田中	1
FP	高松	0	岡村	3
FP	佐藤	0	石毛	7
FP	鳥潟	0	宮内	2
FP	越後屋	0	荒井	6
FP	石戸	0	岡山	1
FP	高崎	0	今関	1
FP	川上	2	藤原	1
PT	(3)	12	(1)	29

（審・中本、渡辺）

▼2回戦

大阪高校選抜 18（8－2、10－6）8 沖縄選抜

○…前半、大阪は早いパスワークからカットインプレーで開始早々3点連取。その後沖縄はノーマークシュートを連続ミスしたのに対し大阪は速攻で着実に加点。後半に入り沖縄は粘っこい攻撃でボールをポストに集め3点差まで追いついたが、大阪の早いパスワークと速攻にはかなわなかった。（北山）

	〔沖縄〕	得	〔大阪〕	得
GK	仲田	0	岡本	0
GK	上江洲	0	坂口	0
FP	米須	0	市来	2
FP	比嘉	3	奥本	1
FP	松田	3	岸上	0
FP	仲宗根	0	白鳥	3
FP	松田	0	中谷	3
FP	宮城	0	牧村	2
FP	古田	0	広瀬	6
FP	高良	0	中山	1
FP	新垣	2	筒井	0
FP	松田	0	辻川	0
PT	(1)	8	(0)	18

（審・中村、増田）

わかとり（鳥取）23（13－6、10－8）14 香川選抜

○…鳥取は立ち上がりディフェンスのスキをつかれ3—1とリー

ドされたが、香川の荒いディフェンスで連続ペナルティーを決め同点としてからは、地元の声援におくられリズムをつかんで着々とリードを広げた。（中村）

得	〔鳥取〕		〔香川〕	得
0	渡部	GK	真鍋	0
0	角	GK	鎌田	0
6	阿部	FP	高藤	0
5	野津	FP	桃本	3
4	俵	FP	原田	7
0	浜田	FP	福崎	0
3	高島	FP	川田	0
3	坂根	FP	赤根	0
2	川端	FP	橘	1
0	大倉	FP	佐伯	3
0	仲元	FP	中山	0
0	佐々木	FP	木村	0
23	(7)	PT	(3)	14

（審・北山、大原）

熊本選抜13（8−3、5−8）11愛知選抜

○…立ち上がり愛知は佐藤のロングシュートで先取点を得たが、熊本は中山を中心に攻守の動きが良く、前半8−3と熊本リードで折り返す。後半10分すぎより熊本は積極的な攻撃で4連続得点で1点差まで反撃したが、辛くも熊本が逃げ切った。（大原）

得	〔熊本〕		〔愛知〕	得
0	清田	GK	三浦	0
0	平田	GK	蒔田	0
0	村橋	FP	安田	4
1	林田	FP	山下	0
4	中山	FP	三浦	0
3	斉藤	FP	伊預田	3
1	田野辺	FP	佐藤	4
0	土本	FP	中山	0
0	河上	FP	岡本	0
0	酒井	FP	佐藤	0
0	河野	FP	大西	0
4	中山	FP	海士部	0
13	(2)	PT	(0)	11

（審・中村、増田）

千葉選抜19（8−8、11−5）13小松商高（石川）

○…千葉はブロックを利用したカットイン、ポストプレーを主に石川はロングシュート、カットインとともにセット中心の攻防で前半を8−8。後半、千葉は岡村を中心に得点を重ねリードした。石川も強引に攻めるが、GKの好守にあい追いつくことが出来なかった。（増田）

得	〔千葉〕		〔石川〕	得
0	木内	GK	吉田	0
0	松丸	GK	東方	0
1	大塚	FP	池田	3
0	菅沼	FP	北本	1
0	田中	FP	森	0
10	岡村	FP	宮崎	0
2	石毛	FP	千代	1
0	宮内	FP	布野	0
6	荒井	FP	高地	1
0	園山	FP	谷口	0
0	今関	FP	北川	2
0	藤原	FP	東出	5
19	(2)	PT	(4)	13

（審・北山、大原）

▼準決勝

大阪高校選抜17（8−6、4−6、1−2、1−0、1−0、2−0）14わかとり（鳥取）

○…前半は大阪ペースで試合が運び2点差をつけるが、後半に入って鳥取が猛反撃、逆転したが、大阪も市来のシュートで再度逆転、鳥取もノータイム寸前同点のペナルティーを決め延長戦に入る。第1延長は同点、第2延長で疲れの見えた鳥取を大阪がふり切った。（丸谷）

得	〔大阪〕		〔鳥取〕	得
0	岡本	GK	渡部	0
0	坂口	GK	角	0
5	市来	FP	阿部	6
1	奥本	FP	野津	1
0	岸上	FP	俵	6
6	白鳥	FP	浜田	0
0	中谷	FP	高島	0
3	牧村	FP	坂根	0
1	広瀬	FP	川端	1
1	中山	FP	大倉	0
0	筒井	FP	仲元	0
0	辻川	FP	佐々木	0
17	(0)	PT	(4)	14

（審・増田、中村）

千葉選抜10（8−5、2−4）9熊本選抜

○…立ち上がり千葉・荒井の45度カットインシュートでリード。熊本は8分間ゲット出来ず。しかし、千葉も加点出来ず、熊本もようやく固さがとれて一度は逆転。千葉は荒井、岡村を中心に攻撃を展開、8−5とリードして前半を終了。後半、熊本は中山のミドルでようやく勢いづき、14分には同点、17分にはリードを奪う。しかし、千葉も18分にPTで追いつき、22分荒井のカットインシュートで1点差で逃げ切った。（福田）

得	〔千葉〕		〔熊本〕	得
0	木内	GK	清田	0
0	松丸	GK	平田	0
1	大塚	FP	村橋	0
0	菅沼	FP	林田	0
0	田中	FP	中山	3
2	岡村	FP	斉藤	2
2	石毛	FP	田野辺	0
1	宮内	FP	土本	1
4	荒井	FP	河上	0
0	園山	FP	酒井	0
0	今関	FP	河野	0
0	藤原	FP	中山	3
10	(1)	PT	(0)	9

（審・島崎、井上）

▼3位決定戦

熊本選抜17（9−7、8−6）13わかとり（鳥取）

○…鳥取は、昨日の大阪戦で負傷した左のエースを欠きながらも地元の大声援を受け熊本の高いディフェンスに苦しみながらも速攻、ポストプレーで加点する。一方熊本は今一つ調子に乗り切れず、前半は互角の戦いであった。後半に入っても鳥取はよく食い下がったが、地力に勝る熊本が勝ちを収めた。鳥取の健闘が光った。（渡辺）

得	〔熊本〕		〔鳥取〕	得
0	清田	GK	渡部	0
0	平田	GK	角	0
0	村橋	FP	阿部	4
1	林田	FP	野津	2
2	中山	FP	俵	1
4	斉藤	FP	浜田	1
3	田野辺	FP	高島	1
3	土本	FP	坂根	0
1	河上	FP	川端	3
0	酒井	FP	大倉	0
0	河野	FP	仲元	0
3	中山	FP	佐々木	1
17	(1)	PT	(3)	13

（審・中村、増田）

▼決勝

大阪高校選抜16（10−7、6−4）11千葉選抜

○…立ち上がり両チームとも緊張のためかパスミスなどがあり一進一退の攻防であったが、徐々にあふれるプレーで大阪がリードする。大阪のディフェンスが良く千葉は攻めあぐむ。また、両チームGKがよく守ったが、大阪が逃げ切って勝利を握った。（井上）

得	〔大阪〕		〔千葉〕	得
0	岡本	GK	木内	0
0	坂口	GK	松丸	0
3	市来	FP	大塚	1
1	奥本	FP	菅沼	1
0	岸上	FP	田中	0
3	白鳥	FP	岡村	3
0	中谷	FP	石毛	1
5	牧村	FP	宮内	0
2	広瀬	FP	荒井	4
2	中山	FP	園山	1
0	筒井	FP	今関	0
0	辻川	FP	藤原	0
16	(1)	PT	(3)	11

（審・萬場、早田）

第5回女子ジュニア世界選手権大会

日本　健闘するが12位に終わる

ジャンプ力とシュート力の強化が課題

日本選手団団長・近藤金博

第5回女子ジュニア世界選手権大会が、88年オリンピックを数年後に控えたソウル（韓国）に於いて開催され、日本のジュニアチームも前回（フランス）に続いて参加した。

会場は観客席は円形で2階になっており、一万五千名収容出来るであろう体育館で、ソウル・オリンピックの時に使用するチャムシル室内競技場であった。大会期間は、オリンピックのリハーサルの為かオリンピックの期間のように長い期日（10月19日〜30日）であった。

長期大会であったが、観客動員は素晴らしく連日観客の動員数は多かった。開会式、韓国のゲームのある日、閉会式は超満員であり、その他の平日でも席の50〜60％は入っていた。日本選手の中には、この観客の多いのを見て驚き、また、多い観客の前で試合をすることが出来ることをすごく感激すると同じに自信を持ったことだろう。

宿舎はソウル市内の南山の近くで、キングセジョンホテルで、全チーム（15ヵ国）が宿泊しここから毎日バスで会場まで試合の時間に合せて往復した。

日本チームは今回のチームを編成し、合宿10回、外国遠征4回（テラモ2回、チュンチェン2回）の強化活動を経験させてこの大会に臨んだ。

試合は6戦して6敗という記録上では最悪であるように見えるが、内容では世界を相手にしても今までよりも大差は感じられなくなって来ている。あと一つキッカケさえつかめば一ケタ（ベスト8）の順位となるであろうと評価出来る。

○第1戦の対ポーランド戦では前半は全くの日本のペースであり、終始リードしていたが、一瞬のパスとシュートのミスから追い込まれ、あせって逆転された。

○第2戦の対ユーゴ戦では、チームの中心選手の近藤とポストマンの梅原を負傷のため先発からはずすという悪条件の中を全員がよく走り、速攻とクロスからのカットイン（ブロックを利用して……）やポストを使う多彩なプレーで粘ったが、ロングシュートをねじ込まれ点差がついた。

○第3戦の対韓国戦は、韓国の速攻を警戒するあまり前半攻撃の空回りが多く、消極的な攻撃となる。また、ポイントゲッターの15番をマンツーマンディフェンスするなど防御中心の作戦に出たこともあり、後半は全員が積極的な攻撃策を取り、日本は磯山のロングがよく決まり（7得点）、若手が頑張った。韓国は対日本では35〜40得点を計算していたようであった。

○第4戦の対フランス戦は、全員がよく走り速攻がよく出るようになった。久保田の早いモーションのシュートが効果的であった。前半・中盤では10―6と4点差となる場面もあったが1点差のシーソーゲームに終始し、後半残り3分にロングシュートを決められたのが決勝点となり、前半リードしながら1点差に泣いた。

○第5戦の対中国戦では、サイド攻撃と速攻がよく決まり、全くの日本の一方的な流れであった。後半、中国は強引に割込んで来るのを甘いディフェンスでPTを連続で取られ、中国を調子に乗せてしまった。後半残り10分まで同点という攻防であったが、速攻とポストで連取され、あと10分で勝負を決められた。

○第6戦の対デンマーク戦は両チームともによく走り、早い動きでロング、クロス、ポスト、サイドと多彩な動きで前半は1点差のシーソーゲーム。後半は3点連取され3点連取するというゲーム展開であったが、デンマークのロングとポストにより差をつけられた。

この6試合で日本は失点が20〜28点で、一試合平均23・83点で、中国の22・85点とは1点差、8位のユーゴの24・0点よりよい。攻撃の面に於いては18・8点で、4位の東独の19・7点と1点差で延長戦分を引くと同点である。しかし、韓国の29点、中国の24・85点と大きな差があり、攻撃力の弱さが目立つ。上位入賞を狙うには得点力を23点まであげなければならない。失点は22点ぐらいで。

個人得点記録では、井沢（29点、11位）、近藤（24点、17位）が大いに頑張り、世界のA級選手と肩を並べていることは将来大きな強みである。

試合の中では、3位のポーランドに日本のペースで試合をしながら逆転され、6位中国には前半5点リード、大差を持っていながら小さなミスから逆転され、10位のフランスにも前半リードしながらこれも逆転され、前半リードしていてこれが守れなかった試合が3試合もあり、残り10分の勝負が大きな鍵である。

上位チームの中には、男子のようなガッツのある選手が必ず1〜2名おり、日本の選手は全員がおとなしい選手ばかりで、迫力に欠けるところが〃試合に勝って勝負に負ける〃結果になるのかもしれない。

大会期間中、勝ち星がないので選手の精神面が不安定となり、試合には何とか勝ちたいということからコートの中で緊張して来る。どうしても気分がスッキリせず、お互いに何とかしなければいけないという気持ばかり先行してイライラして来るなどあったが、山崎、谷口コーチが個人的に面談したりして良い雰囲気作りに種々努力していた。

この大会では、各国とも攻撃に重点を置き強化をしているように強く感じた。

たとえば、左右の45度のポジションに強力な左右の利き腕のロングシューターをそろえており、強力なバランスの良い攻撃力を持っている。

日本も今回の大会参加の反省として、ジャンプ力とシュート力の強化が課題であろう。走力、コンビは良いものがあるが、シュートの決め手に力不足が目立ち、得点するのに絶対という安定性がない。

最も安定性のあるソ連も決勝戦では前半出足が悪く、韓国ペースによって進められ、(韓国16－9ソ連)と大差となってしまった。これが逆に後半勝ちを意識した韓国はやや固くなって、後半の中間につかまり同点となった。韓国はますます固くなり、結局逆転され日本―中国戦と同じような結果となり、大きな点差があっても試合が終わるまでわからないということを実感した。

これがジュニアチームのチーム作りのむずかしいところでもあり、また、調子に乗れば実力以上の力を出すという魅力のあるところだろう。

文末となりましたが、今大会に参加するにあたり、選手派遣に御理解を示された所属チームの関係者の方々、強化活動で施設利用に御協力くださいました関係者の方方、その他激励、応援、御助力をくださいました方々にスタッフ一同は深く感謝しており、心から御礼申しあげます。

基礎体力の向上を重点目標に

日本選手団監督・鈴木義男

アジアで初めてのハンドボール世界選手権であり、あらゆる角度からも注目すべき大会であった。

日本の成績は、予選リーグで同ブロックだったアイボリーコーストが不参加になって決勝リーグに入れたものの、1勝もあげられず参加15ヵ国中12位と残念な結果に終った。

今回の日本チームは、昨年の台湾遠征から始まりイタリア遠征など4回の国際大会の経験をして、国際試合でのプレッシャーはある程度解消出来たこと、また、出発直前合宿も大阪体育大にお願いして男子大型選手との攻防を数多く行ない、パワーや大型チームに対する準備は十分といかないまでも手応えは感じてヨーロッパの一角を倒すことを目ざしソウル入りしたのであったが……。

◎敗因について

・ほとんどの選手が優等生的性格で野性味や図々しい神経の持ち主が少なく、ここ一番の時はお互いに頼り過ぎる。体力、体格に劣っているのであるから、精神的強さがなければ勝負にならない。

・ロングシューターの力不足が目立った。1点を争うゲームの中で小さなプレーヤーが攻めあぐんだ時などの一発必要な場面が多数あった。

・パス、キャッチなどミスがあまりにも多過ぎて、大事な場面での競り合いに自滅してしまった。若い選手だけに未だ基本プレーが未熟であるし、それ以上に緊張感のためにミスするのであろう。

・韓国、中国から見ると個人の技術、体力、精神力など総合的に劣っている。

以上これらの敗因は、選手に責任を押しつけるものではなく、監督の指導不足、戦術不足が原因であり、責任を痛感するものである。長期の合宿、遠征を選手はよく頑張ってくれたと思いますし、多くの収獲も得ました。もう外国チームと戦ってもプレッシャーを感じることがなくなって来ました。特に、東欧の強いチームに対しても「自分たちのミスがなければ決して恐いことはない」とも話しており、防御力強化の練習を行なって来て失点が少なくなり、いつも少差でくいついていけたことなど大きな自信となっている。残念ながら今大会に勝ちゲームがあればもっと変って来たと思いますが……。また、他国選手と活発な交流をしている姿を見て、この選手たちがナショナルへ進んだ時、この経験はいつか生きて来るものと信じたく思います。

◎韓国の勝因

・決勝戦でソ連と大接戦を演じた韓国は、小さな選手は動きをシャープにしなければ勝てないことを実践した。

・防禦でも一線、1：5、1：2：3のシステムを使いこなしてラインを前にあげて、相手にプレーをさせない所までつめている。

・ヨーロッパのハンドボールとアジア的なシャープなプレーを見事に取り入れている。

・練習を積んでいるせいかミスがほとんどなく正確である。

・スピード、パワー、持久力など基礎体力が優れているなど、今後韓国を見習っていくものは多くある。

◎運営

国家事業でなければ出来ない大催事である。一流のホテルに全チームを宿泊させて各階にガードマンが警備、部屋の出入りをチェックするものものしさであるが、各チームの通訳、ガイドはよく働いてくれて何も不自由なし。輸送も各国に1台の大型バスを配備して希望する時間に運行してくれる。

開会式は古典音楽から始まって民族舞踊、マスゲームなど息もつかせぬ演出で素晴らしく、また、試合が終ればコンピューターで即ゲームの詳細なデータを各チームに配布されるし、大会期間中ほとんどの試合をテレビで実況中継しており、一般の人たちでも関心が高い。

韓国のある役員は「ハンドボールはもはやヨーロッパのものではないことを成績や運営で見せつけてやる」と話しており、韓国パワーを見せつけられた思いである。

◎今後の課題

別問題であるが、世界大会に出場する(女子)にはセックスチュ

ックの証明カードが必要であり、今回は日本だけが持参せず、韓国の配慮で受けたことにしてもらった。

・早急に全国的に選手発掘体制を作って優秀な人材を集め、強化を計り国際経験を積ませることによってナショナル強化の一部にしなければいけない。

・基礎体力向上を重点目標に。

・日本の一番近い国で世界大会が行なわれているのですから、日本協会の役員の方々、特に国際関係は視察に来てＩＨＦ、ＡＨＦの役員は各国と交流問題など話し合いがあってもいいのではと思います。

大会の成績

〈日本チームの戦績〉

▼10月19日（予選リーグ）

ポーランド 23（8－9、15－9）18 日本

	〔日本〕	得
GK	小口	0
GK	山口	0
FP	近藤	3
FP	長谷川	1
FP	井沢	1
FP	宮川	6
FP	大野	0
FP	久保田	0
FP	上西	0
FP	梅原	1
FP	市川	1
FP	磯山	2
		18

▼10月21日（予選リーグ）

ユーゴスラビア 24（9－6、15－11）17 日本

	〔日本〕	得
GK	小深田	0
GK	小口	0
FP	長谷川	1
FP	井沢	5
FP	宮川	0
FP	大野	0
FP	久保田	1
FP	上西	6
FP	市川	1
FP	大角	1
FP	近藤	2
FP	執印	0
		17

▼10月26日（準決勝リーグ）

韓国 28（12－4、16－13）17 日本

	〔日本〕	得
GK	小口	0
GK	山口	0
FP	近藤	1
FP	長谷川	0
FP	井沢	3
FP	宮川	3
FP	大野	0
FP	久保田	1
FP	上西	0
FP	梅原	2
FP	大角	0
FP	磯山	7
		17

▼10月27日（準決勝リーグ）

フランス 20（10－11、10－8）19 日本

	〔日本〕	得
GK	小深田	0
GK	小口	0
FP	近藤	7
FP	長谷川	2
FP	井沢	3
FP	宮川	0
FP	大野	0
FP	久保田	4
FP	上西	0
FP	梅原	1
FP	大角	0
FP	磯山	2
		19

▼10月29日（準決勝リーグ）

中国 26（10－15、16－8）23 日本

	〔日本〕	得
GK	小深田	0
GK	小口	0
FP	近藤	7
FP	長谷川	0
FP	井沢	9
FP	宮川	1
FP	大野	0
FP	久保田	3
FP	上西	0
FP	梅原	0
FP	市川	0
FP	磯山	3
		23

▼10月30日（11位決定戦）

デンマーク 22（11－10、11－9）19 日本

	〔日本〕	得
GK	小深田	0
GK	小口	0
FP	近藤	4
FP	長谷川	3
FP	井沢	5
FP	宮川	1
FP	久保田	1
FP	上西	2
FP	大角	1
FP	島崎	0
FP	磯山	2
FP	執印	0
		19

〈日本以外の試合結果〉

▼予選リーグ

●Aグループ

		前半	後半		
ポーランド	22	8－8	14－11	19	ユーゴ

●Bグループ

		前半	後半		
韓国	27	15－8	12－10	18	中国
フランス	15	6－6	9－6	12	スペイン
韓国	40	18－5	22－6	11	スペイン
中国	20	8－3	12－12	15	フランス
韓国	23	12－5	11－5	10	フランス
中国	27	12－4	15－3	7	スペイン

●Cグループ

		前半	後半		
ソ連	39	19－5	20－4	9	オランダ
ルーマニア	23	11－6	12－9	15	ノルウェー
ソ連	28	11－9	17－10	19	ルーマニア
ノルウェー	22	10－5	12－9	14	オランダ
ソ連	26	13－12	13－9	21	ノルウェー
ルーマニア	16	10－6	6－7	13	オランダ

●Dグループ

		前半	後半		
東ドイツ	19	9－5	10－9	14	西ドイツ
デンマーク	26	10－6	16－9	15	オーストリア
東ドイツ	22	9－3	13－8	11	オーストリア
西ドイツ	15	5－2	10－9	11	デンマーク
東ドイツ	15	9－7	6－7	14	デンマーク
西ドイツ	24	5－3	19－5	8	オーストリア

▼準決勝リーグ

●Aグループ

		前半	後半		
中国	37	18－13	19－13	26	ユーゴ
ポーランド	24	11－6	13－5	11	フランス
ポーランド	27	16－8	11－11	19	中国
韓国	33	16－8	17－9	17	ユーゴ
ユーゴ	24	11－7	13－8	15	フランス
韓国	28	12－8	16－7	15	ポーランド

●Bグループ

		前半	後半		
ルーマニア	25	11－8	14－12	20	西ドイツ
ソ連	28	14－6	14－13	19	デンマーク
ノルウェー	25	12－8	13－11	19	東ドイツ
ノルウェー	32	18－12	14－8	20	デンマーク
ソ連	23	11－6	12－3	9	西ドイツ
東ドイツ	18	11－7	7－9	16	ルーマニア

●下位リーグ

		前半	後半		
ルーマニア	24	12－15	12－9	24	デンマーク
ノルウェー	17	8－6	9－10	16	西ドイツ
ソ連	18	12－9	6－7	16	東ドイツ
オーストリア	16	9－7	7－3	10	スペイン
オランダ	18	10－4	8－6	10	スペイン
オランダ	21	8－7	13－6	13	オーストリア

▼9位決定戦

西ドイツ 25（11－9、8－10、6－3）22 スランス

▼7位決定戦

ルーマニア 20（13－4、7－11）15 ユーゴ

▼5位決定戦

ノルウェー 35（19－13、16－14）27 中国

▼3位決定戦

ポーランド 30（10－15、12－7、8－7）29 東ドイツ

▼決勝

ソ連 27（9－16、18－8）24 韓国

［最終順位］①ソ連②韓国③ポーランド④東ドイツ⑤ノルウェー⑥中国⑦ルーマニア⑧ユーゴ⑨西ドイツ⑩フランス⑪デンマーク⑫日本⑬オランダ⑭オーストリア⑮スペイン

国際レフリーシンポジウム報告書 III

「第8条と第17条に関して」

IHF規則審判委員会／ベルナー・フィック

今回は一九八一年（オーストリア・リンダブルン）と一九八三年（西ドイツ・ザールブリュッケン）のトレーナーとレフェリーのシンポジウムについで、私がこのテーマについて話しをする第3回目のものである。

一九八一年には、第8条と第17条に関しての私の解説の最重要点として次のことが問題となった。

1　反則をおかしたプレーヤーのチームに与えられる罰の延長と継続。共同的集団的（チームを意味する）な罰則適用から個人を対象として罰則適用が多くなること。これに加えて自分のコートでの粗暴行為に対して7m投を科することを除外することも含まれている。7m投は、明らかな得点のチャンスを反則で阻止することと、ボール保持の相手プレーヤーに対して防御プレーヤーがゴールエリアに立入ることについてのみ適用されることとなった。

2　一発で失格させること、すなわち試合時間の残り全部を退場（追放、失格を意味する）とすることが、粗暴な反則または非スポーツ的行為に対してのルール適用中に取り入れられることとなった。これまでの適用可能の判定としては、2分間退場か追放処分しかなかったのである。この罰則基準にみられるような耳目に新しい大きな変りようは、もともと、次第にエスカレートする動機原因にあった。それというのもレフェリーが、追放処分というチーム人数が試合終了まで減少した状態になることにためらいを感じ、そしてこのことが上級上訴決定機関による付加罰を期待して第閑視されていたと考える。

3　罰則適用対象が三つの複合、すなわちルール違反、非スポーツ的行為、そして暴力行為ということに減少圧縮されたように、レフェリーが判定をくだすについては、かなりの負担軽減が見られる。特に、例外なしでボールの保持とつながりある反則と他のすべてのボールに関係なくプレーしているプレーヤーの反則も、非スポーツ的行為として組入れられている。これらの行為の軽重についてはレフェリーが適宜正確に見ぬいて罰則を適用しなければならない。

4　相手を圧倒するほどの強さ（過激な）それが段階的に罰則を適用すべき反則とみなす8－10、11が示す反則様態は、近来特に目立つようになって来たが、これもまた必ず段階的（累進加重的）に罰しなければならない。そもそも、我々のハンドボールを維持推進する上で決定的に重要なことは、競技を常に粗暴にして来た意図的で、しかもときにはわざわざそのために特に練習して来たとしか思えないような反則を、すべてしめ出すことである。我々の要求は、間違っている試合のやり方についての従来ネガティブに注目されて来た関係を、これ以上突出した存在になることをみとめないことにある。

一九八三年、ザールブリュッケンでは一つの収支決算ともいうべき評価の吟味が行なわれた。この経験が、今回の新ルール制定の根幹となっている。

相手に対する動作に関連して、どんなことが期待を満足させたであろうか？プレーヤー・トレーナーそしてレフェリーに対して両者の暗闘ともいうべきたたかいがどの程度までみとめられるのか？フェアーでない行為はどんなときにはじまるのか、などについてどのように教育研修し試合に応用し、全体に周知広報するようにとりはからうのか？

これらのことは、特に広い範囲で、つまり粗暴な反則と粗暴な非スポーツ的行為により、一発で失格という結果が出ることは極端な退廃現象であると教えなければならない。

粗暴な（原語訳：野蛮な、残忍な）動作で相手からも負傷させられることを意に介せず相手の行動に非常ブレーキ的圧力をかけるといった行為は、レフェリーの明快な判定能力にもとづいて本質的根本的に阻止抑制すべきことである。段階的に罰せられる反則、すなわちレフェリーにより累進加重的に罰を課することについての評価の吟味は、依然としてかんばしいものではない。マスメディア関係とか興奮しやすい人は、ルール解釈について此事末節にこだわったり、大雑把でいい加減なことしかしゃべらないものである。我々は何らかの事態の判定や、相当する罰則規定に照らして宣告をくだすことでの統一された線というものが、今もなお存在しないことを再三述べて来た。段階的に罰するに相当する行為であるか、またはそうでないかについての分類配列にしても、解釈の幅は依然として大きいものがある。

今回私は、西ドイツのブンデスリガ81～82年シーズンでの実例でこのことを明らかにしたいと思う。

あるワンペアーのレフェリーは、その担当した複数の試合で、平均7・1分の退場時間を課しており、他のペアーは1試合平均21分という実績であった。このことは、極端に少ない方の3倍の退場処分があったことを物語っている。そしてまたこのことはプレーヤーやトレーナーにとってその反応をあらわすのに、何ら大きな実施努力（苦労）を必要とするものではないし私自身で名づけた冷温・交互入浴法（厳しいときとゆるやかなときをうまく地別して対処する）を毎週交互に使いわけるときのようなものである。この矛盾はいかにも大きすぎる。全般的にみて、反則の多い試合に対しての我々の期待内容は達成されたものとみえ、

反則による試合中断はこれまでの約⅓に減少している。このことは、この数年間に行なわれた最も重要な大会、すなわち、一九八〇年のオリンピック大会決勝と一九八二年の世界選手権大会の決勝で表われている。新しいルールの効果は、吹笛対象となった反則が7・7％減少したということの原因となっている。激しい反則内容が多い試合展開が起こっていることの状況証拠については、男子の世界選手権大会での組織的観察と評価で明らかになっている。一九八一年のAとCの世界選手権大会は、今まで行なわれたすべての大会、それも一九七〇年までさかのぼって反則の多いチームで勝った例と負けた例との比較対象が、実際に行なわれた最初のものである。そこでも反則の多いチームの方が有利となっていた。2年後と現ルール（81年版）が実施以来の4年経過した今日、再びこれを評価吟味してみて、次のことを事実として確認せざるをえない。

第8条と第17条との関連で段階的罰則適用について誤解を生ずる余地のない明確さで表現されているとは言いがたい。このことは、一九八一年版ルールの指示解説の中に8—10、11として、いつ、どのように段階的に罰するかについての説明をつけた方がよい。17条では単に「くり返し行なわれる」か「何度もくり返して行なわれる」反則について記述されているだけである。この一見明確にみえる定義の中にも存在する欠陥がレフェリー活動組織の中での研修と教育手順をいちじるしく困難なものにし、しかも短期間で解決出来ないものとしている。そしてまた、この種の抜本的なルール改正という特別の場合に、81年4月1日に公示し8月1日に実施に入るようにするには、時間的に短かすぎることも認めざるをえない。この4ヵ月という少ない準備期間で、研修教育作業にとりかかる前に公用の各国語に翻訳し印刷を終わらせなければならないのである。

我々の見るところでは、各国の審判部長諸氏は、このルール知識と情報を下部組織に伝達することで大変な苦労困難に直面しているものと思う。そして、なお欠陥不備は現に存在している。その上に、加えてこの準備時期が夏休みに入っていることと、印刷製版中であることと、チームが改正点について習熟するための試合機会がこの短かい準備期間中に多くはないということを我々自身計算に入れていなかったこともあげられる。シーズンの当初、大多数のレフェリーは、はからずもこの新ルールの最初の解説伝達者としてプレーヤーと対立状態で一方的に驚かせることとなった。このプレーヤー・トレーナーとレフェリーの両者が相互に過大な要求をするところに、意見の相違が生じたことは容易に理解出来る。同時に、我々は十分に慣らされていない観衆やマスコミが持つレフェリーへの不満反応となってますます悪い方へ向ってしまうことも忘れてはならない。

それにしても、要するにこの膨大な量のルール改正に必要とされる準備と研修時間は短かすぎる評価の比較対照で、段階的罰則適用についてはいまだに不完全不満足の状態で、目下横行している解釈の幅の存在が今日もなお我々の悩みの種となっている。段階的に罰せられるべき反則判定で意見のくい違いはもはやそれ自体レフェリー体質の一部となって強く表われているかに見える。このような状態にたちいったからには、調整修正を絶対に必要とする。

各々のチームのプレーヤーは、自分自身でどれがルールで許されて、どれが許されないかを前もって見積ることが出来るはずである。私が言いたいのは、段階的罰則適用の一線を決めることを個々のレフェリーの主観にまかせずに全体との関連で適用する基準をすべてのレフェリーに持たせるようにしたいということである。レフェリー諸氏は、これらのルールに反する試合状況の鑑別と判定についてどれが段階的罰則適用対象なのか、またはそうでないのかを適確に把握するため最大の努力を傾けるべきである。

視覚に訴える教育資料として、段階的罰則についてだけ取扱った2本のビデオテープを展示観覧に供したい。ひとつは否定的な意味で西ドイツ国内の最高クラスのチームによる実例を示している。この視覚による事実確認とその後の処置の是非確認という練習手段は、試合判定のプロセスを促進し円滑化するために最良の研修支援となるものである。

次に私の話の後半部に入る。

現在我々が提示している85年版ルール発行にあたって、第8条の相手に対する動作について81年版では、単に指示として説明するにとどめられた点を増補拡大する。旧8—12では、このように言っている。相手に対する反則では、フリースローか場合によっては7mスローと判定すべきである。このことは、試合中のすべての反則の過半数、または、ほとんどがこれに含まれる。これらの様相は、ボール確保に影響を与えない性質のフリースロー判定、また場合によっては、クリアーゴールチャンスでの反則に7mスローを科すといった調子で、今まで再三くり返されて来たこと、そしてプレーヤーとレフェリーの闘争という形の特徴が再発するものとみられる。8—13はこう述べている。相手に対する反則でそれが過激でしかも相手だけを目指してボールを対象としないことには段階的に罰しなければならない。そして、この段階的罰則の適用は非スポーツ的行為についてももちろん有効である。ここでこのルールから段階的罰則の対象となる反則が問題である。

この関連から、私は85年版の指示解説中の11項目として注意を向けることを勧告する。そこにはこのあと出てくるテキストに含まれている8—13、17—1b、17—5eとの関連の詳細にわたる解説がのっている。

段階的適用とは、試合中の相手への動作について、ボールに対してくり返し起こるような通常さほどに問題にするにたらぬ反則の程度を越えて逸脱し、フリースローだけで罰することがあってはならないものをいう。このことのヒントとすべきことは、圧倒的（過激）であり、ボールに対してでなく、もっぱら相手の身体に対する行為であることが前提であり、8—4～11、12であげられる反則行為である。この件で重要なことは、抱きつく、つかんで放さない、突きとばす、ジャンプして突き当たる、足を出す、叩く、打つなどの明らかな反則行為である。

同じようにみえるが、8—13に表現されている身体を相手の方へ向ける行為は問題なく認められる。（注・胴体で守る）段階的罰則を適用すべき行為として罰するには、最初は警告をもってし、この後失

格に結びつけるように上昇的、累進的に加罰する傾向を守ることを意味している。警告、または退場が他の理由、例えば相手のスローのとき3m以内にいるとか反則のあとただちにボールを手から離さないなどのときは、これまた、同様に非スポーツ的行為として段階的に追加して罰するものとする。

従来のルール解釈についての重要な改正については、必ず指示伝達して注意を向けさせなければならない。旧ルール17―1bは、はじめは広い意味での段階的罰則としてくり返される反則に対して警告することを考えたものである。我々がレフェリー諸氏に指示した勧告は、次のとおりである。この種の方法手段による行為の最初では、その限界を知らせるため出来れば言葉によるか、ゼスチャーによって示し、フリースロー判定で罰する。

85年8月1日発効予定のルールでは、明らかに段階的罰則適用を可とする反則には直ちに警告を発し、同一人によるくり返しには退場処分としなければならない。新ルール8―14には、旧ルール8―12にある粗暴な非スポーツ的行為としてあわせ取り入れられた。同様に8―15には第8条の相手に対するもっとも粗暴な行為という表現が、コート上での暴力行為として拡大されたこのことでも17―11の解説の中に暴力行為という概念定義が取り入れられたことを示唆する。

●第17条について

17―1b　次の場合警告しなければならない。

相手に対する動作では段階的罰則適用の対象となるもの、この根本的な変更についてはすでに8―13で言及した。レフェリー諸氏に対し、我々は明らかな段階的罰則についての示唆の新しい表現は反則現象の判定基準が先鋭化（厳しくなる）することを意味するものではないことを強調する。従来ルール解釈に大まかで大雑把であったレフェリー諸氏には、今回の強制的説得力ある規定がもうけられたことを尊重すべしという指示が出されたと考えるべきである。そして、従来些細なことにこだわるか、または反応過敏であったレフェリー諸氏には、どちらともつかぬ場合の判定場面では反則をしたと思われるプレーヤーの有利にしてやるべきである。もみろんこの場合にも適切な注意は示すべきである。

レフェリーの事実判定については、今も変らず前記の理由でも抗弁の余地はない。17―2の注釈に警告対象者の範囲が示されている。これまで個々のプレーヤーとチームに対して宣告されていたが、今回からチーム役員もその対象となるよう追加された。

17―3について。ここではルール内容に準じてあげられる順番配列が変更された。追加されたのは17―3a、新ルール4―6の不正入場である。17―3bは17―1bと似ているが、何回もくり返し行なわれる反則とあるのを、くり返し行なわれた段階的罰則相当の反則となった。

17―3cにあるくり返し行なわれた非スポーツ的行為は、次の追加で補われている。コート上のプレーヤーによる。

17―5では、文の表現短縮と若干の文の追加あり。17―5で変更された順番配列の次、17―5cに加えられている。コート外でプレーヤー、またはチーム役員が非スポーツ的行為をくり返してした場合、17―5fの暴力行為についての指示内容にチーム役員、またはプレーヤーと広げられている。

17―6では文章上の変更、17―8にあるのと同じく、交代地域からの即座の立退きについて言及している。

17―7の暴力行為について。この注釈については私はすでに注意を呼びかけている。17―9、10文構成の修正のみ。

17―11文構成上の修正と（すでに17―5にある）指示事項は除外され、旧ルール最終部分にあったものが新しく17―12に入れられた。

私は再度レフェリーの段階的罰則の適用の可否についての多様な評価の実状について述べることとする。一九八一～八二シーズンと一九八四～八五シーズンの西ドイツ、ブンデスリガの対比の実例。（表1参照）

シーズン		81～82年	84～85年
評価対象試合数		182	162
退場時間の平均（ペアによる吹笛）	最低値	7.1分	13.1分
〃	最高値	21.0分	27.4分
	差	13.9分	14.3分
ホームチーム退場時間		1090分	1490分
ビジティングチーム退場時間		1210分	1544分
	差	120分	54分

最も極端な数値については、1試合につき退場時間平均八一～八二シーズン13・9分であったのが、八四～八五では14・3分となっていることである。

はじめてみた限りでは、解釈の幅がさほど大きく変っていないことを示すかにみえる。基本的な分析では、この結果はそう悪いものではない。抽出された20ペアのレフェリーの75%は最高差7分の退場を科していて、ほとんど同じである。残りの25%のレフェリーは、10・2分から14・3分の差をみせている。平均数値が大きく離れている5ペアーのレフェリーには、もっと良い評価に達するよう特段の注意を促すべきであろう。このことはまた、このシーズンでのすべての試合が今までの182の評価対象となった試合（八一～八二）、162の試合（八四～八五）でホームチームは一四一〇分ビジティングチームは一五四四分という数値によっても、教育研修が拡充された結果として秩序が強化されているとみとめる。ちなみに両シーズンの合計は二三〇〇：三〇三四、差は734である。よろこばしいことには、八四～八五の数値でのホームチームとビジターチームの退場時間の比較では54分という少差となっている。これは、ホームチームの有利さを打破することに前途有望な光明を見いだすものと思われる。これらの西ドイツでの結果は当然ながら世界のハンドボール界との関連には何らの影響もなく、これが全般につながると考えることは出来ない。

私はこれらの確認された評価事実内容をかくしておこうとは思っていないし、これにより諸氏が統計資料を自分の国で収集作成する手段となれば幸である。望ましいこと、歓迎すべきこととして、私は統計の成果をお互いに交換することにより、同じものかまたは似

たような研究調査になればよいと思う。規則審判委員会は各国の審判部長のために必要な出版物資料を介して対等の協同活動をすすめることに喜びの念で同意し大いに援助したいと考えている。

●その他

情報通信第144号（八五年3月）にノルウェー協会会長テオリーフ・ガンゲ氏の講演の抜粋が掲載されたことは我々の注意関心を大きく呼ぶものである。これには攻撃側にとって有益であり、討議資料とすべき多くの立派な考え方が述べられている。我々が何度もくり返しかかげた要求といおうか願望というべきか、レフェリー諸氏が試合戦術の行動様式をもっと深く学習習熟するようのぞんでやまない。報告の評価査定をここで直ちにとりかかることはしない。我々としては皆さんに、皆さん自身によるテオリーフ・ガンゲ氏の論述趣旨である批判的観察方法についてのグループ討議にとりかかってもらいたいと考えている。

おしまいに、私はDHW85年第10号からドクター・ギュンター・A・ビールス氏の第8条と第17条についてのテーマと、レフェリーが当面している眼前の大きな困難点についての寄稿文から引用することにしたい。

プレーヤーは、スポーツでの成功を求める意気込みによりある程度までの反則は受け入れている（許容している）。それはある意味で普通正常とも言えよう。

プレーヤーの攻撃的傾向の規格様式、すなわち、暴力の威力と功撃的な振るまいはルールの意図するところとははるかにかけはなれた見方で寛大にあつかわれている。

このようなあり方、態度はわかり切った反則を受容し、正当化することが、スポーツの世界に入ってからこのかた組織的に教え、教えられてきて、それにレフェリーが直接ついて行けない状態か、または意識的、無意識的であるにせよ、トレーナーの煽動、教唆を通じての物差しによるトリックと反則を特に狙ってのトレーニングの成果としてあらわれている。実際に、このように内面化した攻撃的なハンドボール様式が実行されているということは、プレーヤーがスポーツとしての成功することへの興味関心を相手を負傷させることになるやり方で受け入れている状態がまだ続いていることを示すものである。勝つことだけにこだわりすぎているトレーナーに対して、そのチームメンバーにフェアープレーを保持し、ルールを尊重順守するように期待するのは余計で無駄なことなのであろうか？

このような次第から、とりわけレフェリーを過小評価でなく中心的な役割存在であることを認めるべきである。それだけになおさらのこと、勝つことは手段方法哲学を神聖化してしまう（勝つためには手段を選ばず、または勝てば官軍）ことにより、勝利への欲求を通じレフェリーが攻撃的ハンドボール様式につながるプレーの空間領域範囲を意のままに設定し、定義づけてしまえばプレーヤーは必然的に反則の利用活用を考える……。それのみならず、レフェリーペアがそれぞれのチームの打ち合せ（ミーティング）での戦術計算を聞いてみれば、その試合のレフェリーはどの程度まで大ざっぱで、どの程度まで些細な点にこだわるか、どの程度観察の影響を受けるかなどについての経験を検討し、その上に加えて、発生することは、レフェリーが、ルールを守り、それに従うというプレーヤーにとって必然的責任を免除してしまうようになってしまうことである。

何が許されて、何が不可なのか、もうルールの問題ではなく、レフェリー自身のことである。

試合の開始のときにプレーヤーははじめに自分がレフェリーからどのくらい離れてプレー出来るかをチェックする。レフェリーはいろいろな理由で状況に応じた攻撃面にヒントを与えるというありがたくない役割りに、心ならずも落ちこんでしまう。そして、レフェリーは常に嘲笑の的となり、あるとはわかりきった反則で余裕のない範囲態度を示し、攻撃面での規格方式（やり方）を過小化するなど些事末端にこだわった吹笛をしてしまったり、またあるときはプレーヤーの反則の規格範囲を大きくしてしまい、極端な粗暴行為や途方もない荒っぽさまでエスカレートすることに役立つだけの粗雑な吹き方をする。

※　※　※

ドクター・ビールス氏の談話は以上のようであるが、目下の状勢はハンドボール界のみにとどまらず、すべてのスポーツにも現にあてはまることである。しかしながら、このままでは我々のハンドボールはハンドボールを終始自チームの手中に保持するためプレーヤーは攻防の規格範囲の大小にかかわらず、事前に申し合せたようなレフェリーとプレーヤーの対抗戦と化してしまうのみならず、レフェリーの判定活動をこの上なく困難なものにしてしまうことは明白に予見可能である。このようなときにあって常にレフェリーのそばにあって助け、支えることは我々の任務である。

IHF公式解釈

1。公示時計使用の場合にはタイムキーパーは退場時間をカードに記入し退場者に渡す（退場者カード）。

退場時間が終了した退場者は入場する際にそのカードを記録席に出して入場する。

2。ペナルティースローの時のゴールキーパーの交代は、シューターが位置についた後は認めない。

3。ペナルティースローの時レフェリーはシューターの利腕の側に立って吹笛することが望ましい。

4。第8条の適用についてはボールに対する行為か身体に対する行為かをよく見極め、身体に対する行為については厳しく判定する。

5。ジャックルについて

プレーヤーがボールをキャッチしようとして瞬間的にコントロールしそこなった時や（7—7）、シュートカットなどで、ボールをコントロール出来ない時は、この適用を受けない。「コントロールをした」とは、たとえば方向を変えるなどである。

6。キックボールについて（7—8）

キャッチミスや相手から投げられたボールが下腿または足に触れてもこれによって利益を得たとはいえない。

下腿または足で操作した時のみ反則となる。

●各地学生秋季リーグ戦●

関東学生秋季リーグ戦

▼男子1部

チーム	スコア	チーム
日大	28-14	順大
中大	26-21	早大
慶大	25-23	法大
日体大	32-30	国士大
中大	27-25	順大
法大	33-29	国士大
慶大	35-29	日体大
日大	23-23	早大
日大	25-22	法大
中大	31-28	日体大
慶大	30-15	順大
国士大	30-21	早大
中大	20-19	法大
国士大	40-20	順大
慶大	20-19	早大
日大	39-26	日体大
日体大	27-16	順大
法大	31-22	早大
慶大	26-21	中大
国士大	30-22	日大
中大	30-28	国士大
日体大	23-21	早大
順大	19-18	法大
慶大	38-26	日大
早大	26-18	順大
日体大	27-27	法大
国士大	36-24	慶大
中大	29-28	日大

●順位 ①慶応大 ②中央大 ③国士舘大 ④日本大 ⑤日本体育大 ⑥法政大 ⑦早稲田大 ⑧順天大

▼男子2部

チーム	スコア	チーム
筑波大	48-16	東理大
東学大	21-21	専大
明大	33-16	武工大
東学大	19-18	東大
東海大	36-17	専大
明大	30-22	東理大
東海大	19-19	東大
筑波大	44-11	武工大
東学大	29-19	武工大
東海大	38-22	東理大
筑波大	42-9	専大
明大	25-17	専大
東海大	41-12	武工大
筑波大	30-12	東大
東学大	26-24	東理大
専大	27-20	武工大
明大	21-19	東大
東大	30-19	東理大
専大	29-26	東理大
東大	36-19	武工大
筑波大	35-14	東学大
明大	26-21	東海大
東学大	26-25	明大
東理大	33-31	武工大
東大	20-14	専大
筑波大	32-22	東海大
東海大	25-15	東学大
筑波大	30-21	明大

●順位 ①筑波大 ②明治大 ③東海大 ④東京学芸大 ⑤東京大 ⑥専修大 ⑦東京理科大 ⑧武蔵工業大

▼男子3部

チーム	スコア	チーム
神奈川大	20-15	明星大
立大	26-20	埼玉大
茨城大	29-24	埼玉大
茨城大	29-23	一橋大
神奈川大	26-20	千葉工大
東農大	28-20	明星大
立大	29-19	一橋大
東農大	36-16	千葉工大
一橋大	34-19	東農大
立大	30-18	千葉工大
埼玉大	26-18	神奈川大
一橋大	29-20	神奈川大
立大	26-19	明星大
一橋大	24-20	明星大
埼玉大	34-16	千葉工大
一橋大	26-19	千葉工大
立大	32-17	神奈川大
明星大	29-25	埼玉大
茨城大	33-17	千葉工大
埼玉大	32-24	東農大
茨城大	22-17	明星大
茨城大	26-26	東農大
立大	24-19	東農大
茨城大	36-23	神奈川大
一橋大	36-31	埼玉大
立大	29-23	茨城大
明星大	32-14	千葉工大
東農大	32-18	神奈川大

●順位 ①立教大 ②茨城大 ③一橋大 ④東京農業大 ⑤埼玉大 ⑥明星大 ⑦神奈川大 ⑧千葉工業大

男子4部

チーム	スコア	チーム
都立大	29-23	横国大
駒大	23-17	創価大
上智大	20-20	防衛大
駒大	22-20	防衛大
防衛大	20-19	創価大
横市大	30-15	亜大
都立大	24-21	駒大
上智大	23-17	創価大
上智大	25-24	横市大
駒大	32-15	亜大
防衛大	24-21	横国大
創価大	25-16	亜大
都立大	21-21	防衛大
都立大	26-16	亜大
駒大	22-21	上智大
横市大	29-21	創価大
横国大	27-25	横市大
創価大	20-16	横国大
上智大	24-23	都立大
駒大	27-20	横市大
都立大	25-21	創価大
都立大	24-21	横市大
横国大	21-16	亜大
防衛大	24-17	横市大
上智大	29-21	横国大
防衛大	28-13	亜大
上智大	36-16	亜大
駒大	28-25	横国大

●順位 ①駒沢大 ②上智大 ③東京都立大 ④防衛大 ⑤横浜市立大 ⑥創価大 ⑦横浜国立大 ⑧亜細亜大

▼男子5部

チーム	スコア	チーム
農工大	29-15	文教大
農工大	36-22	武蔵大
国武大	34-27	関学大
都留大	34-24	独協大
国武大	31-21	芝工大
関学大	28-27	都留大
独協大	26-21	武蔵大
国武大	34-20	文教大
芝工大	32-24	関学大
関学大	39-26	武蔵大
芝工大	25-19	都留大
関学大	25-22	独協大
都留大	23-19	文教大
都留大	29-23	武蔵大
文教大	20-20	芝工大
農工大	26-22	独協大

国武大 29-23 武蔵大
独協大 23-19 文教大
芝工大 23-23 農工大
関学大 28-24 農工大
文教大 31-26 武蔵大
農工大 27-22 都留大
文教大 30-23 関学大
都留大 26-25 国武大
芝工大 32-18 独協大
国武大 40-24 農工大
国武大 41-14 独協大
芝工大 41-17 武蔵大

●順位 ①国際武道大 ②芝浦工業大 ③東京農工大 ④都留文科大 ⑤関東学院大 ⑥文教大 ⑦独協大 ⑧武蔵大

▼男子6部

東経大 29-19 明学大
千葉大 27-4 大東大
明学大 18-17 大東大
千葉大 24-16 成蹊大
大東大 18-17 青学大
東経大 32-21 千葉大
東工大 27-23 明学大
成蹊大 22-20 玉川大
青学大 30-26 玉川大
東経大 26-20 大東大
成蹊大 23-17 東経大
千葉大 25-24 明学大
東工大 26-25 玉川大
青学大 28-17 千葉大
成蹊大 22-20 明学大
東経大 30-29 青学大
玉川大 22-21 明学大
大東大 22-21 成蹊大
千葉大 29-25 東工大
青学大 30-24 明学大
千葉大 24-17 成蹊大
東工大 24-17 成蹊大
東経大 23-17 東工大
玉川大 26-23 東経大
成蹊大 31-22 青学大
青学大 引分け 東工大
東工大 27-25 大東大
大東大 21-21 玉川大

●順位 ①東京経済大 ②千葉大 ③東京工業大 ④成蹊大 ⑤青山学院大 ⑥大東文化大 ⑦玉川大 ⑧明治学院大

▼男子7部

○Aブロック

東洋大 23-19 拓大
産能大 31-22 横商大
横商大 33-21 群馬大
産能大 41-12 群馬大
産能大 27-22 東洋大
横商大 31-25 拓大
帝京大 21-18 拓大
東洋大 23-14 帝京大
拓大 31-21 群馬大
横商大 25-24 帝京大
産能大 41-25 拓大
産能大 21-21 帝京大
横商大 28-27 東洋大
帝京大 29-19 群馬大
東洋大 33-17 群馬大

「順位」①産能大②横商大③東洋大④帝京大⑤拓殖大⑥群馬大

○Bブロック

東外大 40-23 東工大
東外大 30-18 山梨大
東工大 26-26 山梨大
東外大 38-13 日工大
東外大 26-21 和光大
日工大 30-22 山梨大
山梨大 19-18 和光大
和光大 27-19 日工大
和光大 25-19 東工大
日工大 12-0 東工大

「順位」①東外大②和光大③日工大④山梨大⑤東工大

○順位決定戦

東外大 28-19 産能大
和光大 20-17 横商大
東洋大 12-0 日工大
帝京大 12-0 山梨大
拓大 31-30 東工大

●順位 ①東京外国語大 ②産業能率大 ③和光大 ④横浜商科大 ⑤東洋大 ⑥日本工業大 ⑦帝京大 ⑧山梨大 ⑨拓殖大 ⑩東京工芸大 ⑪群馬大

▼女子1部

日体大 25-22 日女体大
東女体大 28-11 東海大
筑波大 29-11 東学大
筑波大 29-10 東学大
日体大 32-20 日女体大
東女体大 21-11 東海大
日体大 37-14 東海大
筑波大 30-13 日女体大
東女体大 27-5 東学大
日体大 35-12 東海大
筑波大 34-17 日女体大
東女体大 15-7 東学大
日女体大 20-12 東学大
筑波大 32-10 東海大
日体大 27-16 東女体大
東海大 12-12 東学大
東女体大 26-11 日女体大
日体大 27-19 筑波大
東女体大 31-10 日女体大
東海大 18-16 東学大
筑波大 27-18 日体大
日女体大 17-12 東海大
日体大 25-11 東学大
筑波大 32-18 東女体大
日女体大 20-17 東海大
日体大 29-11 東学大
筑波大 28-15 東女体大

●順位 ①筑波大 ②日本体育大 ③東京女子体育大 ④日本女子体育大 ⑤東海大 ⑥東京学芸大

▼女子2部

都留大 13-8 創価大
文教大 29-23 千明大
茨城大 55-2 学短大
文教大 12-0 学短大
千明大 63-2 学短大
都留大 17-8 千葉大
創価大 36-14 横国大
文教大 31-7 創価大
都留大 51-2 学短大
千明大 36-15 横国大
文教大 38-10 千葉大
千明大 38-7 千葉大
創価大 44-10 学短大
茨城大 22-11 横国大
茨城大 17-8 千葉大

茨城大 20－9 創価大
千葉大 16－3 横国大
文教大 15－14 茨城大
文教大 29－7 都留大
創価大 13－10 千葉大
千明大 26－13 茨城大
千葉大 12－0 学短大
文教大 29－9 横国大
茨城大 10－8 都留大
千明大 33－10 創価大
横国大 12－0 学短大
千明大 24－11 都留大
都留大 28－8 横国大

●順位
①文教大 ②千葉明徳短大 ③茨城大 ④都留文科大 ⑤創価大 ⑥千葉大 ⑦横浜国立大 ⑧学習院女短大

▼入れ替え戦

独協大	31－2	千葉大
（5部7位）		（6部2位）
東経大	21－20	武蔵大
（6部1位）		（5部8位）
芝工大	28－17	横国大
（5部2位）		（4部7位）
国武大	30－17	亜大
（5部1位）		（4部8位）
早大	32－19	明大
（1部7位）		（2部2位）
筑波大	22－15	順大
（2部1位）		（1部8位）
玉川大	25－20	産能大
（6部7位）		（7部2位）
東外大	24－22	明学大
（7部1位）		（6部8位）
上智大	29－21	神奈川大
（4部2位）		（3部7位）
駒大	35－20	千葉工大
（4部1位）		（3部8位）
東理大	29－28	茨城大
（2部7位）		（3部2位）
武工大	29－28	立大
（2部8位）		（3部1位）
東学大	21－17	文教大
（女子1部6位）		（女子2部1位）

※この結果、筑波大、駒沢大、上智大、国際武道大、芝浦工大、東京経済大、東京外語大が昇格、早大、東京理科大、武蔵工大、独協大、玉川大、東京学芸大（女子）が残留を決定しました。

東北学生秋季リーグ戦

（10月16～19日／仙台市体育館）

▼男子1部
東北学院大 21－19 岩手大
東北学院大 25－11 仙台大
東北学院大 32－18 福島大
東北学院大 31－20 山形大
東北学院大 35－17 東北大
岩手大 19－11 仙台大
岩手大 30－20 福島大
岩手大 28－17 山形大
岩手大 27－19 東北大
仙台大 31－26 福島大
仙台大 30－18 山形大
仙台大 34－21 東北大
山形大 21－13 福島大
福島大 24－14 東北大
東北大 18－14 山形大
［順位］①東北学院大②岩手大③仙台大④福島大⑤山形大⑥東北大

▼男子2部
宮城教育大 22－21 弘前大
宮城教育大 25－23 秋田大
宮城教育大 23－17 学院大工学
宮城教育大 30－14 日大工学
宮城教育大 38－14 東北福祉大
宮城教育大 28－16 東北工大
弘前大 19－18 秋田大
弘前大 28－19 学院大工学
弘前大 44－18 日大工学
弘前大 30－13 東北福祉大
弘前大 25－12 東北工大
秋田大 23－20 学院大工学
秋田大 18－16 日大工学
秋田大 26－21 東北福祉大
秋田大 23－22 東北工大
学院大工学 27－12 日大工学
学院大工学 31－14 東北福祉大
学院大工学 22－12 東北工大
日大工学 26－20 東北福祉大
日大工学 12－0 東北工大
東北福祉大 12－0 東北工大
［順位］①宮城教育大②弘前大③秋田大④東北学院大工学部⑤日大工学部⑥東北福祉大⑦東北工大

▼女子
岩手大 15－7 福島大
岩手大 18－5 東北福祉大
岩手大 24－17 山形大
岩手大 32－8 宮城教育大
福島大 9－8 東北福祉大
福島大 19－15 山形大
福島大 27－4 宮城教育大
東北福祉大 8－6 山形大
東北福祉大 26－3 宮城教育大
山形大 35－6 宮城教育大
［順位］①岩手大②福島大③東北福祉大④山形大⑤宮城教育大

北信越学生秋季リーグ戦

（10月18～20日／三国町民体育館）

▼男子1部
金沢大 31－15 長野大
福井大 22－22 金沢工大
富山大 26－15 長野大
金沢大 25－15 富山大
金沢工大 33－13 長野大
金沢大 32－10 福井大
金沢工大 24－9 富山大
福井大 25－9 長野大
富山大 17－16 福井大
金沢大 26－16 金沢工大
［順位］①金沢大②金沢工大③富山大④福井大⑤長野大

▼男子2部
信州大 36－8 金沢美大
新潟大 30－20 富山医大
信州大 33－14 金沢医大
新潟大 30－15 金沢美大
信州大 36－9 富山医大
金沢医大 28－11 金沢美大
新潟大 35－24 金沢医大
富山医大 18－14 金沢美大
金沢医大 23－18 富山医大
信州大 20－9 新潟大
［順位］①信州大②新潟大③金沢医大④富山医大⑤金沢美大

▼女子
富山大 10－5 新潟大
金沢大 13－13 信州大
富山大 16－7 信州大
金沢大 11－8 新潟大
信州大 16－6 新潟大
金沢大 14－7 富山大
［順位］①金沢大②富山大③信州大④新潟大

各地の記録から・・・

東日本医科学生総体

（8月3、4日／石橋勤労者体育センター他）

▼予選リーグ

○A組
昭和大 26－20 慈恵医大
岩手医大 26－17 昭和大
岩手医大 21－21 慈恵医大

○B組
日本医大 19－16 北海道大
北海道大 40－5 群馬大
日本医大 42－5 群馬大

○C組
北里大 21－13 山梨医大
山梨医大 19－19 杏林大
北里大 27－13 杏林大

○D組
自治医大 24－9 筑波大

▼9～11位決定リーグ
慈恵医大 12－0 群馬大
杏林大 12－0 群馬大
慈恵医大 35－33 杏林大

▼5～8位決定トーナメント
筑波大 21－12 山梨医大
北海道大 20－19 昭和大
山梨医大 21－14 昭和大
筑波大 25－23 北海道大

▼決勝トーナメント1回戦
日本医大 22－13 岩手医大
自治医大 30－11 北里大

▼3位決定戦
北里大 19－18 岩手医大

▼決勝
自治医大 35－15 日本医大

［順位］①自治医大②日本医大③北里大④岩手医大⑤筑波大⑥北海道大⑦山梨医大⑧昭和大⑨慈恵医大⑩杏林大⑪群馬大

全日本医科学生体育大会王座決定戦

（8月6日／石橋町勤労者体育センター）

▼リーグ戦
山口大 25－16 日本医大
自治医大 21－9 日本医大
自治医大 29－16 山口大

［順位］①自治医大②山口大③日本医大

第64回愛知県実業団リーグ戦

（9月11日～10月3日）

▼1部
トヨタ車体 36－20 豊田合成
豊田自動織機 18－16 日本電装
トヨタ車体 32－16 新日鉄名古屋
トヨタ自動車 30－22 新日鉄名古屋
豊田自動織機 33－22 豊田合成
日本電装 22－15 新日鉄名古屋
トヨタ自動車 24－18 豊田自動織機
豊田合成 23－20 日本電装
トヨタ車体 24－18 豊田自動織機
豊田合成 26－24 新日鉄名古屋
トヨタ自動車 30－25 トヨタ車体
トヨタ車体 36－19 日本電装
トヨタ自動車 37－19 豊田合成
豊田自動織機 29－23 新日鉄名古屋
トヨタ自動車 29－19 日本電装

［順位］①トヨタ自動車②トヨタ車体③豊田自動織機④豊田合成⑤日本電装⑥新日鉄名古屋

▼2部
日本碍子 37－13 ブラザー工業
豊田工機 44－19 パイロット
アイシン精機 31－15 東海理化
パイロット 29－24 アイシン精機
豊田工機 55－16 ブラザー工業
日本碍子 28－15 東海理化
アイシン精機 30－21 日本碍子
ブラザー工業 28－16 東海理化
豊田工機 37－25 日本碍子
パイロット 13－11 東海理化
アイシン精機 34－31 ブラザー工業
日本碍子 26－16 パイロット
豊田工機 44－17 東海理化
ブラザー工業 24－21 パイロット
豊田工機 37－33 アイシン精機

［順位］①豊田工機②日本碍子③アイシン精機④パイロットインキ⑤ブラザー工業⑥東海理化電機

▼入れ替え戦（10月4日）
新日鉄名古屋 32－11 豊田工機

※新日鉄名古屋は1部残留。

第15回近畿実業団選手権

（9月22、23日／大和銀行桃山台体育館、大阪ガス今津体育館、東淀川体育館）

▼予選リーグ

○Aブロック
三和銀行 33－9 住友銀行
神戸製鋼 16－12 三和銀行
神戸製鋼 25－11 住友銀行

［順位］①神戸製鋼②三和銀行③住友銀行

○Bブロック
住友金属 31－10 鐘淵化学
住友金属 30－16 美津濃
美津濃 30－22 鐘淵化学

［順位］①住友金属②美津濃③鐘淵化学

▼5～8位決定戦
三和銀行 27－13 鐘淵化学
美津濃 キケン 住友銀行
鐘淵化学 22－19 住友銀行
美津濃 25－21 三和銀行

▼準決勝
大阪ガス 22－7 神戸製鋼
日鉄建材 33－14 住友金属

▼3位決定戦
住友金属 21－19 神戸製鋼

▼決勝
大阪ガス 18（8－6、10－7）13 日鉄建材

［順位］①大阪ガス②日鉄建材③住友金属④神戸製鋼⑤美津濃⑥三和銀行⑦鐘淵化学⑧住友銀行

※大阪ガスは初優勝。

国体四国地区予選

〈成年男子〉

▼1回戦
讃岐ク 43－31 池田ク
愛媛選抜 29－25 高知ク

▼決勝
愛媛選抜 28（16－14、12－12）26 讃岐ク

〈成年女子〉

▼1回戦
愛媛選抜 23－12 高知ク
香川選抜 20－14 池田ク

▼決勝
愛媛選抜 22（8－8、14－6）14 香川選抜

〈少年男子〉

▼1回戦
愛媛選抜 36－11 徳島選抜
香川選抜 32－20 高知東高

▼決勝
愛媛選抜 37（18－6、19－8）14 香川選抜

〈少年女子〉

▼1回戦
香川選抜 19－11 愛媛選抜
徳島選抜 16－11 高知東高

▼決勝
香川選抜 33（18－4、15－3）7 徳島選抜

第22回仙台市民総体

（9月27～29日／仙台市体育館）

〈成年男子〉

▼決勝
ピーターパン 26（10－11、16－10）21 育英ク

〈成年女子〉

▼決勝
聖和ク 15（5－4、10－5）9 東北福祉大

〈少年男子〉

▼1回戦
宮城工 24－22 宮城野ク
仙台商 32－7 学院榴岡
萩ク 17－16 電子工
名取北 20－11 東北高
泉松陵 27－10 宮城広瀬

▼2回戦
仙台一高 37－11 宮城工
萩ク 30－10 仙台商
塩釜高 19－18 名取北
仙台育英 26－9 泉松陵

▼準決勝
仙台一高 20－20 萩ク（PTC）
仙台育英 28－16 塩釜高

▼3位決定戦
萩ク 20－13 塩釜高

▼決勝
仙台育英 26（15－7、11－4）11 仙台一高

〈少年女子〉

▼1回戦
聖和A 13－6 朴沢
聖和B 18－9 宮城二女

宮城一女 22－5 宮城三女
▼準決勝
聖和A 14－7 塩釜女
聖和B 18－12 宮城一女
▼3位決定戦
宮城一女 8－7 塩釜女
▼決勝
聖和B 19（14－4、5－3）7 聖和A

第38回千葉県民体育大会

（10月5、6日／東邦大付東邦高、泉高体育館）

〈男子〉
▼1回戦
東葛飾郡 30－27 松戸市
習志野市 33－21 香取郡
佐原市 23－18 君津市
柏市 39－12 木更津市
八千代市 30－23 船橋市
流山市 22－13 君津郡
市原市 31－23 千葉市
▼2回戦
東葛飾郡 26－23 市川市
佐原市 24－23 習志野市
柏市 25－23 八千代市
市原市 35－25 流山市
▼準決勝
東葛飾郡 32－18 佐原市
柏市 31－28 市原市
▼決勝
柏市 22（12－11、10－9）20 東葛飾郡
※柏市は3年ぶり2回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
市川市 29－5 柏市
佐原市 20－13 松戸市
香取郡 22－16 流山市
▼準決勝
市川市 16－15 千葉市
香取郡 19－8 佐原市
▼決勝
市川市 18（10－5、8－5）10 香取郡
※市川市は2年ぶり4回目の優勝。

第3回千葉県クラブ秋季リーグ

（10月13、20日）

▼男子1部
小金ク 29－21 流山中央ク
さわらク 17－16 市川FOG
市原ク 27－22 流山中央ク
小金ク 12－0 さわらク
市原ク 23－21 小金ク
市川FOG 20－20 流山中央ク
さわらク 28－17 市原ク
小金ク 22－11 市川FOG
さわらク 23－19 流山中央ク
［順位］①小金ク②さわらク③市原ク④市川FOG⑤流山中央ク
▼男子2部
東邦ク 20－19 清水ク
清水ク 26－20 柏南ク
清水ク 26－19 スティラーズ
東邦ク 29－16 柏南ク
東邦ク 30－18 スティラーズ
スティラーズ 28－13 柏南ク
［順位］①東邦ク②清水2③スティラーズ④柏南ク
▼男子3部
道野辺ク 12－0 沼南ク
柏ク 23－20 道野辺ク
柏ク 23－11 若松ク
沼南ク 25－16 柏ク
道野辺ク 14－9 若松ク
沼南ク 22－10 若松ク
［順位］①道野辺ク②沼南ク③柏ク④若松ク
▼女子
水郷ク 17－11 佐原ク
［順位］①水郷ク②佐原ク

第37回長崎県民体育大会

（11月3日／島原農高）

〈男子〉
▼リーグ戦
佐世保市 36－7 大村市
佐世保市 32－14 長崎市
長崎市 24－21 大村市
［順位］①佐世保市②長崎市③大村市

〈女子〉
▼1回戦
長崎市 14－10 島原市
佐世保市 13－8 諫早市
▼決勝
長崎市 13（4－4、9－6）10 佐世保市

第4回長崎県中学新人大会

（11月4日／長崎工高）

〈男子〉
▼リーグ戦
大瀬戸中 19－13 時津中
大野中 28－13 時津中
大瀬戸中 21－11 大野中
［順位］①大瀬戸中②大野中③時津中

〈女子〉
▼決勝
大瀬戸中 20－4 清水中

第35回茨城県総合選手権

（11月3、4日／笠間高）

〈男子〉
▼1回戦
岩井高 26－16 太田一高
オールド茨城教員 33－5 水戸工高
水海道一高 16－15 勝田工高
麻生高 11－7 日本原研
茨城大 22－16 藤代紫水高
守谷30 40 24－15 八郷高
桐ノ葉ク 28－11 千代田ク
竹園高 31－9 大和ク
▼2回戦
筑波大 23－16 岩井高
オールド茨城教員 25－21 笠間高
江戸川学園高 26－12 水海道一高
麻生高 8－7 竜ヶ崎一高
茨城大 22－16 動燃東海
守谷30 40 21－13 土浦三高OB
筑波学園ク 21－12 桐ノ葉ク
茨苑ク 20－16 竹園高
▼3回戦
筑波大 27－19 オールド茨城教員
江戸川学園高 16－15 麻生高
守谷30 40 キケン 茨城大
茨苑ク 19－18 筑波学園ク
▼準決勝
筑波大 45－8 江戸川学園高
守谷30 40 24－23 茨苑ク
▼3位決定戦
茨苑ク 30－16 江戸川学園高
▼決勝
筑波大 43（20－8、23－7）15 守谷30 40

〈女子〉
▼1回戦
八郷高 16－9 高萩高
結城二高 10－6 西峰ク
鉾田二高 21－6 筑波ラバーズ
竜ヶ崎二高 16－13 麻生高
藤代紫水高 26－7 笠間高
潮来高 11－8 太田二高
茨城大 21－4 那珂湊二高
▼2回戦
水海道二高 29－3 八郷高
結城二高 15－9 鉾田二高
竜ヶ崎二高 17－10 藤代紫水高
茨城大 16－6 潮来高
▼準決勝
水海道二高 13－8 結成二高
茨城大 15－6 竜ヶ崎二高
▼3位決定戦

結城二高 9－8 竜ヶ崎二高

▼決勝

水海道二高 14 (8－5, 6－2) 7 茨城大

第12回千葉県総合選手権

(11月2～4日／佐原高、佐原小)

〈男子〉

▼1回戦

我孫子高 キケン 市原ク

八千代高 15－12 国際武道大B

市川高 31－9 若松ク

流山中央高 20－9 木更津高

市川FOG 13－10 若松高B

佐原高 16－15 海白下総B

東京学館高 キケン 日産石油化学

若潮ナッツ 38－21 拓大紅陵高

国際武道大A 33－9 市原高

若松高 13－10 千葉明徳高

▼2回戦

千葉教員 35－8 我孫子高

市川高 20－8 八千代高

小金ク 28－15 流山中央高

三井石油化学 17－17 3PTC0 市川FOG

佐原高 18－14 若潮ク

海白下総A 27－16 東京学館高

若潮ナッツ 24－21 国際武道大A

若松高A 17－12 佐原ク

▼3回戦

千葉教員 32－17 市川高

小金ク 17－12 三井石油化学

海白下総A 30－18 佐原高

若潮ナッツ 29－19 若松高A

▼準決勝

千葉教員 38－21 小金ク

若潮ナッツ 23－22 海白下総A

▼決勝

千葉教員 29 (12－11, 17－7) 18 若潮ナッツ

※千葉教員は8年連続10回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦

千葉明徳短大 27－9 流山中央高

佐原高 15－9 御宿家政高

佐原女高 キケン 佐原メッツ

▼準決勝

千葉明徳短大 18－15 千葉ク

佐原高 14－13 佐原女高

▼決勝

千葉明徳短大 31 (15－7, 16－6) 13 佐原高

※千葉明徳短大は初優勝。

第15回近畿クラブ対抗選手権

(11月3日／彦根東高、彦根工高)

〈男子〉

京セラハンドク(滋賀) 14－9 東山ク(京都)

生駒ク(奈良) 13－7 雪陵ク(大阪)

神戸ハンドク(兵庫) 12－11 京セラハンドク

生駒ク 9－8 東山ク

雪陵ク 18－11 神戸ハンドク

生駒ク 15－7 京セラハンドク

雪陵ク 19－7 東山ク

生駒ク 14－10 神戸ハンドク

雪陵ク 13－7 京セラハンドク

神戸ハンドク 11－10 東山ク

[順位]①生駒クラブ(奈良)②雪陵クラブ(大阪)③神戸ハンドクラブ(兵庫)④京セラハンドクラブ(滋賀)⑤東山クラブ(京都)

〈女子〉

古都ク(京都) 12－10 滋賀ク(滋賀)

大和ク(大阪) 10－9 スカイバンビク(奈良)

滋賀ク 18－10 風見鶏ク(兵庫)

古都ク 11－6 スカイバンビク

大和ク 14－6 風見鶏ク

滋賀ク 14－8 スカイバンビク

古都ク 7－3 大和ク

風見鶏ク 10－6 スカイバンビク

滋賀ク 7－7 大和ク

古都ク 14－5 風見鶏ク

[順位]①古都クラブ(京都)②滋賀クラブ(滋賀)③大和クラブ(大阪)④風見鶏クラブ(兵庫)⑤スカイバンビクラブ(奈良)

和歌山県秋季選手権

(11月3、4日／粉河高)

〈一般男子〉

▼1回戦

笠田ク 28－20 海南高

御坊商工 16－14 和歌山大

応神ク 25－20 粉河高A

笠田高B 22－16 市和商高

県和商高A 26－11 粉河高B

県和商高B 23－15 和歌山ク

▼2回戦

御坊ク 34－13 笠田ク

黒潮ク 32－16 近大附高

御坊商工 29－15 桐蔭高

県和商ク 26－7 応神ク

那賀高 26－16 笠田高B

県和商高A 24－10 箕島高

打田ク 35－29 笠田高A

住友金属 29－13 県和商高B

▼3回戦

御坊ク 23－14 黒潮ク

県和商ク 25－16 御坊商工

那賀高 17－14 県和商高A

住友金属 25－15 打田ク

▼準決勝

御坊ク 23－20 県和商ク

住友金属 26－18 那賀高

▼決勝

御坊ク 22 (9－8, 13－5) 13 住友金属

〈一般女子〉

▼1回戦

県和商高B 12－10 和歌山大

▼2回戦

粉河高A 20－13 県和商高B

御坊商工 26－5 県和商高A

那賀高 11－9 貴志川高

粉河高B 14－13 県和商ク

▼準決勝

粉河高A 14－11 御坊商工

粉河高B 25－10 那賀高

▼決勝

粉河高B 24 (12－6, 12－7) 13 粉河高A

〈中学男子A級の部〉

▼予選トーナメント1回戦

貴志川中 21－8 那賀中

岩出中B 24－9 湯浅中

▼2回戦

貴志川中 15－13 岩出中B

▼敗者1回戦

那賀中 21－16 湯浅中

▼同最終戦

岩出中B 14－12 那賀中

▼予選リーグ戦

岩出中A 37－6 金屋中

岩出中A 32－12 白馬中

白馬中 17－7 金屋中

▼準決勝

貴志川中 16－4 白馬中

岩出中A 24－6 岩出中B

▼決勝

岩出中A 22 (8－8, 14－7) 15 貴志川中

〈中学男子B級〉

▼リーグ戦

打田中 18－13 貴志川中

西和中 18－11 貴志川中

打田中 24－20 西和中

[順位]①打田中②西和中③貴志川中

〈中学女子〉

▼予選トーナメント1回戦

貴志川中 9－2 那賀中

金屋中 23－9 粉河中

▼2回戦

貴志川中 14－4 金屋中

▼敗者1回戦

那賀中 16－1 粉河中

▼同最終戦

那賀中 8－4 金屋中

▼予選リーグ戦

岩出中 7－5 桃山中

桃山中 15－5 打田中

岩出中 34－6 打田中

▼準決勝

貴志川中 13－5 桃山中

岩出中 11－3 那賀中

▼決勝

岩出中 12 (6－2, 6－2) 4 貴志川中

〈小学生〉

▼決勝

和歌山市男子 13 (8－6, 5－0) 6 和歌山市女子

お願い

各地の試合結果、ニュースをどしどし機関誌編集委員会宛お送り下さい。

ハンドボールを楽しくしよう

ハンドボール協会も62年2月で50年目を迎えることになった。

半世紀過ぎようとしているが、他の球技と比較すると競技内容、人気面に於いて大きな差がある。その原因は、と考えると色々とありそうだが、ハンドボール関係者の多くの人達の腹案は、そう違いはなく、ほとんど正解に近いと言える。でもそれを実行しようとすると、そこには大きな厚い壁があって、なかなか現状では無理なことが多い。あれだけ日本国内では多くの種目が毎週のように、特に最近では、世界のビックゲームの企画が多く、バレーボール、サッカー、それにバスケットボールなどはすべてヒットしているのに、我がハンドボールは進歩はなく、旧態依然とした枠の中である。

明日の隆盛を夢みて地道な努力を重ねている人々も沢山いるように思うが、少しも日の目をみない。どうにかしないと暗くなるばかりである。

頂点強化か普及（底辺拡大）か、はたまたマスコミへの働きかけか、すべて大切で、どれが先とは言えないが、まずは普及で各団体の充実だと言える。マスコミへの働きかけも大切だが、これは各大会をご覧になれば理解出来るはずで、ガラ〱のスタンドでは、新聞に書きようも載せようもなかろう。まず自らの手でファンを集める努力から始めるべきではないか。そして、魅力のある選手とプレーである。

最近の試合は、ゴールエリアラインとフリースローラインの間でプレーをし、ポストプレーだけで全くつまらないという声を良く耳にする。速攻やロングシュートはどこへ行ってしまったのだと言われるが、勝つことを考えれば、それどころでなく、近く最も角度の広いポストを狙うのが賢明であり、得点への確率が最も高いから当然であろう。

そうなると世界に通じるロングシューター養成は益々遠くなってしまう。最近は、日本の選手でも1m90cmを越える長身選手も多いようだが、豪快なシュートを打つ選手は皆無に近い。こうなってきたのは、各指導者が良くルール研究をしているとも言えるし、もうひとつは、3年間という短期間で長身選手を育てるのは容易な技ではない証拠とも考えられる。

そうするには、一例だがルールを変えて、フリースローライン外から打ち得点となったら2点を与えたらどうだろう。それだけではなく、両サイドの狭い角度やスカイプレーにも、2点を与えたら、もっとバラエティーに富んで楽しくなるのは間違いないと思う。

30点も入る試合で、どこから打っても同じ点数というのは競技をつまらなくしている。点差が開いたら逆転の可能性もないスポーツなんておよそ人気なんか出やしない。

日本国内の人気スポーツは、すべて意外性を持っている。だからドラマが生まれ、感動し、そのスポーツ種目の虜になっていくのだ。いまこそ画期的なことを打ち出す時期にあるのではないか。

（川上整司）

〔お願い〕

現在のハンドボール界についてのみなさんの意見をいろいろ出していただき、それを基に一層の発展を期していきたいと考えております。

今月号では、川上整司氏に一つの私見を発表していただきましたが、あくまでもこれは自由な意見を種々発表していただき、討論していただきながら、明日のハンドボール界建設の手がかりとしていきたいと思います。

今後多くの方々の意見を募りたいと考えておりますので、みなさまの率直なご意見を日本ハンドボール協会宛お送り下さい。機関誌誌上での活発なご議論を期待しております。

賛助会だより

61年1月からは新年度です
賛助会の輪をもっと広げましょう！
―ハンドボールの強化と普及を皆さんの手で―

ハンドボールをＴＶで

「ハンドボール！」。この素晴しいスポーツを皆さんのお友達も見たり体験されているでしょうか？

新聞紙上などで試合の結果が報道されておりますが、テレビで試合が放映されることはほとんどありません。より多くの人に、より深くハンドボールを知ってもらいたい、それが皆さんの心からの切望ではありませんか。

テレビで放映してもらうのは生やさしいことではありません。まず魅力ある試合であること、またその結果でもあると思いますが、多くの観客が集まることです。

来年はソウルでのアジア大会、1988年にはソウル・オリンピックと、目前に大きなイベントが迫っております。日本協会でも国際試合など魅力あるイベントを企画しておりますが、皆さんに、これを支えるハンドボールファンを一人でも多く増やしていただきたいのです。

賛助会が設立されてからおかげさまで２年たらずで法人会員21社、個人会員450名余のご加入をいただきました。

賛助会費収入からは機関誌増刷及び送料を差引いた残りは、強化、普及事業に大きな力となっております。

ハンドボールの観客を増やすためにも、新会員の紹介を是非ともお願いします。

小学生にハンドボールを

日本協会のもう一つの課題は、小学生に対するハンドボールの普及です。全国の各ブロック毎にようやくチビッ子ハンドボールが盛んになって来ました。親子ハンドボールのほほえましい姿が全国津々浦々に……。

この夢を皆さんとともに一日も早く実現したいものです。

どうか賛助会の皆さん、お一人お一人が一人でも多くの知人を誘っていただき、その新会員からまたご紹介をいただくことにより賛助会の輪を広げてまいりたいと思います。

１月からの新年度を迎えるにあたり魅力ある会員の特典を具体化すべく検討を重ねております。

何卒皆さんの心からのご協力をお待ちしております。

会員証の切り替えは１月からです

現会員の皆さんには、ご継続のための書状をお送りいたしますのでよろしくお願いいたします。

60年度賛助会会員御芳名（敬称は略させていただきます）

◎特別法人会員

東京重機工業(株)、伊藤忠商事(株)、立石電機(株)、本田技研工業(株)鈴鹿製作所、大崎電気工業(株)、日新製鋼(株)呉製鉄所、ジャスコ(株)、中村荷役運輸(株)、(株)日立製作所栃木工場、(株)大和銀行、(株)北国銀行、東北ムネカタ(株)、大同特殊鋼(株)、トヨタ自動車(株)、(株)三景、新日本製鉄(株)、湧永製薬(株)、(株)三陽商会

◎一般法人会員

(株)シャトレーゼ、(株)三越トラベルセンター

◎特別個人会員

（茨城）大西武三、阿部二郎、幡谷祐二、富永劭、入江信太郎（栃木）滝沢武、渡辺慶寿（埼玉）井田萬三郎、川上整司（東京）斎藤英四郎、荒川清美、武田喜三、大野金一、黒田富郎、武内史衛、中沢重夫、安藤純夫、滝口三郎、岡田卓也、高田日呂美、岡前義春、近藤金博、菅野富夫、佐野和夫、山本佐知子（神奈川）北川勇喜、竹内義文（山梨）李寿旭、清水正、古屋正（長野）木下秀男、北原佐久生、油井孝一郎、新津真澄、柳沢民弥（富山）金原至、嶋田新太郎（愛知）幸村稔、木下浩次、田中滋章、宇津野年一、平野恭夫（大阪）村田弘、平井博道、福島富造、中根武彦、山田稔、新家谷隆夫、荏畑平男（鳥取）里和則（山口）柳井文治（香川）乃村正数（福岡）日野博（熊本）藤田八郎（宮崎）奥村真人

◎一般個人会員

（北海道）安福嚴、武山修、藤本強、塩沢克敏（青森）渡辺匡（宮城）山形敬一（秋田）佐藤栄子、鈴木久美子、石井美佐子、菊地美佐子、古谷裕子、金俊子、北川由記子、村上敦子、加賀谷恭子（福島）村上俊一、菅野慶助、原田文子、先崎みな子（茨城）山内孝雄、鈴木均、山田利美、大村久、田中勲、住谷稔、会田真一、雨海左武郎、額賀早苗（栃木）関口雄康、中山富夫、岸裕行（群馬）加藤禎子、内藤静子（埼玉）堀内福、加藤廣、中村甲治、福光正行、宮原修、佐々木則子、松井朋代、小泉安紀子、渡辺栄子、勝沼友香子、中村恭子、玉田和代、高橋信子、新井郁子、塚田咲枝、野々村久代、大谷節子、岡村寿子、佐藤道子、萩原初江、藤間純子、北村美代子、相上登代子、持田マサ子、坂田淑栄、宮島信雄、栗原和子、菅一枝、長島広、鷲見雄一、野口陽一郎、和智由彦、渡部照夫（千葉）牧内清、池田安亘、戸塚武雄、市川史生、芳野昌義、後藤勇、佐藤繁子、上中範子、石尾紀子、山根敦美、小原紀恵子、片岡智子、本間誠章、亀井浩明、浜崎恵美子、小高節子、稲生茂、風間勝也、上野一仁、渡辺幸人（東京）塩川安賢、杉山茂、村野嘉孝、山岸信久、山崎延秋、大塚恒雄、鷹野芳機、荒木亮、蒲生功、河合幸一、黒田英司、富田泰正、沼崎末次、宮崎智代、渡辺孝昭、村田稔、石河広安、飯塚政子、水越元子、高橋由紀子、香川照子、永田淳子、中川幸子、島田京子、藤原侑、一宮昌平、石井幸、高坂盛彦、クロガネクラブ、北均、橋本隆三、高橋正之、天谷敦、内藤隆、藤本靖、岩見裕子、岡田貞也、中島善彦、佐久間久枝、島田茂、山本一枝、所美智子、岸史郎、杉本恵子、知京子、山本好恵、黒田英司、石川正徳、安泰行、佐野一敏、松下清隆、浦野孝、田中有三、吉田博子、松丸桂子、山崎義雄、野中耕一、佐久間美那子、坂本吉弘、清水康夫、高松正司、吉本八東、河内鋭雄、太田淳夫、中井貴美子、上本仁士、緒方勇一郎、小島重喜、清水康之、八木欣之介、吉田弘正、林尚樹、神宮司ミキ子、小野光、丸山希理子、福島美和子、安田静子、深瀬悦子、中本美子、石井康子、星照美、矢田明美、市川千恵、伊原千代子、古谷美紀子、松尾澤乃、山崎由香、大川泰子、大林恵子、嶋田美智代、藤井仁美、沖山元子、大前泉、福地富美枝、森田文子、谷村紀子、卯野秀樹、坂本宏一、金刺実、松野翠、八木重二、小川善次郎、西川晴重、山本美枝子、吉野茂、滝実（神奈川）石川清雷、菊池源、臼井鉄久、丘島孝彦、新井千鶴子、大塚みき子、村松誠、今井敬太、森晴雄、山内賢、水上忠、島田房二、佐々木勝、植村繁、宇田川保子、宮崎千恵、横地正厚、塩川政則、川口充、福井俊彦、嵩聡久、藤原幸介、大東秀明、杉田愛弓、坪井昇（山梨）植野保、名取澄子、斎藤実、丸山房江、島崎純子、海道昭子、海道元子、小菅里江子、松沢祐子、渡辺恵美子、成島美恵、渋谷雅子、小林喜代子、武田久美、春山真由美、星野加津美、金子和江、平田公枝、百瀬亜矢、天川正次、西室覚、土橋昭、植野保（新潟）鈴木亮一（長野）中沢正巳、中島恒夫、望月豊、小田川利男、内藤忠、高橋重雄、加藤雅之、小島千明、岩下道範、青木崇、後藤恵理子（富山）松木譲、早崎幸一、鍋島遼一、角勉、中田貞夫、徳前啓人、桶家寛、山口吉弘、旅逸郎、光安美津夫（石川）中田裕己（福井）竹野秀輝、西島喜代治、山田清治、庄司勝三、柴田俊之（静岡）鈴木光明、茂津目勝仁、秋山光男、望月達夫、石切山ひで、沢柳重弘、生子勝久、工藤誠司、後藤攻、稲森照男、松下順、大滝修（愛知）早川弘三、横地宇喜、寺沢忠美、近藤仁江、本田晃一、嶺木昌行、石川憲久、林良一、角紘昭、浅野克彦、岸田寿夫、冨田寛治、石田二郎、中井武三、松原光三、新井磨早子、藤江敏恵、浅井美幸、星野好美、鳥井誠三、梅村忠雄、中山和重、横井輝雄、勝野国雄、爾津行雄、高橋信昭、西山幸成、栗脇嶷（三重）小川賢治、田木信一、西村亮治（岐阜）曽我順一、野久康明、松野召（滋賀）小西春夫（京都）中塚優（大阪）望月伸三郎、浅井安子、福本祐子、草井由博、山本茂生、大藤八郎、鷹野勝子、中川純夫、後節子、塩川正十郎、黒田悦弘、三好長興、山崎武、市原則之、北岡大覚（兵庫）新井節男、小笹武三、大西清志、宮沢賢二（奈良）檜井喜之、森田正英、木村吉延、山口浩（和歌山）楠山安生、島昌三、川口譲、山田進（鳥取）森田昌子（島根）林尚秀（岡山）黒住宗晴、藤井俊朗、小嵐昭子（広島）大橋季彦、片岡賢二、寺尾順子、河岡照三、久保陽子（山口）大野浩光、藤田信義、近間忠一、室谷六郎、松前久仁治（香川）楠原利明、石原達夫、竹本恵一、溝内哲也、大出茂晴（徳島）黒川光明、白井正彦（愛媛）山崎幸夫、森田政志、梶浦暲一（高知）鈴木喜雄（福岡）古賀信男、中西敬一（佐賀）中園嘉彦、久保田秀光、上野杉男（長崎）和田旬功、田中丸善一郎（熊本）後藤常男、古庄昌雄（大分）脇屋長可、疋田忠（宮崎）中村利吉、坂本平（沖縄）大城盛仁、名城典克、嘉陽宗陰、屋良朝一、高倉幸一、平仲孝栄

インフォメーション＆トピックス

ハンドボール関係者から二名が昭和60年度体育功労者に

昭和60年度の体育功労者として表彰された方々の中に、ハンドボール関係者から入江信太郎、古屋正の両氏が入っておられます。ここにご紹介するとともに受賞をお祝い申し上げます。

入江信太郎氏（67歳）
日本ハンドボール協会理事
茨城県ハンドボール協会副会長
関東ハンドボール協会会長
茨城県スポーツ振興審議会委員

古屋　正氏（71歳）
山梨県ハンドボール協会副会長
塩山市スポーツ振興審議会会長
山梨県健康づくり推進会議部会長

玉村、酒巻両選手が西欧へ留学

湧永製薬の玉村健次、酒巻清治の両選手が、11月上旬西ドイツに向けて出発した。両選手は西ドイツのブンデスリガチームへ入団、来年6月下旬までの1シーズン、本場のハンドボールを学んでくる予定。両選手が、日本のハンドボール界の今後に向けて多くのものを学びとって帰国してくれることを期待したい。

明春、大阪高校選抜　西独へ遠征

大阪府ハンドボール協会びに大阪府高体連ハンドボール部では、西ドイツ協会の招聘により、昭和61年・62年度の国体大阪高校選抜チームの強化の一環として、大阪府高体連より優秀な選手として選考された大阪府高校選抜候補チームを、明年3月21日から4月4日までの15日間、西ドイツへ遠征させることになりました。

第37回全日本総合選手権組合せ
（12月17日～21日・東京体育館）

〈男子〉

1 湧永製薬
2 本田技研熊本
3 瓢箪クラブ
4 日本体育大学
5 三景
6 栃の葉クラブ
7 大阪体育大学
8 桜門クラブ
9 トヨタ車体
10 筑波大学
11 本田クラブ
12 日新製鋼
13 本田技研鈴鹿
14 中村荷役運輸
15 自衛隊県
16 日本大学
17 滋賀教員
18 アシックスクラブ
19 三陽商会
20 本田技研爽風会
21 トヨタ自動車
22 中部大学
23 京都教員B
24 大崎電気工業

17日(火) 1回戦	18日(水) 2回戦	19日(木) 準々決勝	20日(金) 準決勝	21日(土) 決勝
Ⓐ18：00（2－3）	Ⓐ18：50～（1－2・3勝者）	16：10～	16：10～	14：05～
Ⓐ16：10（4－5）	Ⓐ16：10～（4・5勝者－6）			
Ⓐ15：20（8－9）	Ⓐ13：30～（7－8・9勝者）	10：50～		
Ⓑ14：00（10－11）	Ⓐ10：50～（10・11勝者－12）			
Ⓑ14：00（14－15）	Ⓑ10：50～（13－14・15勝者）	13：30～	18：50～	
Ⓑ15：20（16－17）	Ⓑ13：30～（16・17勝者－18）			
Ⓑ16：40（20－21）	Ⓑ16：10～（19－20・21勝者）	18：50～		
Ⓑ18：00（22－23）	Ⓑ18：50～（22・23勝者－24）			

〈女子〉

1 日立栃木
2 シャトレーゼ
3 古都クラブ
4 東京重機工業
5 日本体育大学
6 日本ビクター
7 筑波大学
8 ジャスコ
9 立石電機山鹿
10 東京女子体育大学
11 武庫川女子大学
12 大和銀行
13 プラザー工業
14 ソニー国分
15 北国銀行
16 大崎電気工業

18日(水) 1回戦	19日(木) 準々決勝	20日(金) 準決勝	21日(土) 決勝
Ⓐ17：30（1－2）	14：50～	14：50～	12：30～
Ⓐ14：50（3－4）			
Ⓐ12：10（5－6）	9：30～		
Ⓐ9：30（7－8）			
Ⓑ9：30（9－10）	12：10～	17：30～	
Ⓑ12：10（11－12）			
Ⓑ14：50（13－14）	17：30～		
Ⓑ17：30（15－16）			

スポーツが好き。汗が好き。

笑顔があります。涙があります。
躍動があります。記録への挑戦があります。
チームプレイの和があります。
からだを動かしていると
人生の大切なものがたくさん見えてきます。
新日鉄は、スポーツを通し
心身を鍛える皆様に声援をおくります。

新日本製鐵